富山市埋蔵文化財調査報告29

富山市
鵜坂（うさか）Ⅰ（いち）遺跡
発掘調査報告書

２００８

富山市教育委員会

例　　言

1　本書は、富山市婦中町鵜坂地内に所在する鵜坂Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、タカノ興発株式会社（代表取締役社長　高野二郎）が施行する「鵜坂の里」住宅団地造成に伴うものである。富山市教育委員会埋蔵文化財センター指導監理のもとに山武考古学研究所が実施した。

3　遺跡の所在地、調査面積、調査期間、調査担当者は下記の通りである。

所在地　　富山市婦中町鵜坂51番地　外

調査面積　　321㎡

現地調査　　平成19年11月５日～同年11月16日

整理調査　　平成20年４月１日～同年４月30日

調査担当者　平岡和夫・藤田登・田中寿明・越智徹・折原洋一

監理担当者　藤田富士夫・古川知明・堀内大介・細辻嘉門

4　発掘調査及び整理作業にあたり、江尻正夫氏にご教示とご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。

5　本書の執筆は、下記の通りである。

第Ⅰ章　古川知明

第Ⅱ章　第Ⅳ章　第Ⅴ章　折原洋一

第Ⅲ章　藤田登

凡　　例

1　本遺跡の略記号はUS-1である。

2　遺構の種別記号は次の通りである。

土坑・・・SK　溝・・・SD　ピット・・・P

3　本報告書の遺構番号は平成１７年度調査の遺構番号と重複を避けるため頭となる数字に今回の調査を示す２を加えて三桁とし、201・20Xという形で表示した。

4　挿図中の方位は、座標北（世界測地系）を示す。

5　本書の挿図の縮尺は下記の通りである。

遺跡全体図　1/2,500　地区全体図　1/600

遺構実測図　土坑・溝・ピット　1/40

遺物実測図　1/3を基本とし、一部の大型の製品については1/4を用いた。

6　遺物実測図で使用したスクリーントーンは以下の内容を示す。

黒色処理　赤彩　スス　磨面　敲打痕

目　次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 3

1　地理的環境 …… 3

2　歴史的環境 …… 3

Ⅲ　調査の概要 …… 4

1　調査の経過 …… 4

2　発掘調査の方法 …… 4

3　整理調査の方法 …… 6

4　基本層序 …… 8

5　各地点の概要 …… 9

Ⅳ　遺構・遺物 …… 15

1　概要 …… 15

2　12－７地点 …… 15

3　12－８ …… 15

4　６－７地点 …… 28

5　遺物観察表 …… 28

Ⅴ　総括 …… 33

図版 …… 35

報告書抄録 …… 41

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・ 2
第２図　鵜坂Ｉ遺跡平成17年度調査区 ・・・・・・ 5
第３図　本報告調査地点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第４図　各調査地点区域図 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第５図　Ａ地区の基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第６図　Ｂ・Ｃ地区の基本層序 ・・・・・・・・・・・・ 8
第７図　13－2・12－7・12－8・6－7地点
　　の平面と層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第８図　3－1・3－2・3－3・3－13・2－2
　　地点の平面と層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第９図　平成17年度調査Ａ地区と
　　13－2・12－7・12－8地点 ・・・・・・・・・ 12
第10図　平成17年度調査Ｂ地区と
　　3－2・3－3・3－13・2－2地点 ・・・・・ 13
第11図　平成17年度調査Ｃ地区と3－1
　　6－7地点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第12図　12－7地点出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第13図　12－8地点全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第14図　SK201・202、SD201～03・・・・・・・・・・・・17
第15図　SK201・202、SD201～03断面図・・・・・・18
第16図　SK201・202遺物出土状況・・・・・・・・・・・19
第17図　SK201土錘出土状況及び出土遺物・・・・20
第18図　SK202土錘出土分布状況・・・・・・・・・・・・21
第19図　SK202出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・・・・22
第20図　SK202出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・・23
第21図　SK202出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・・・・24
第22図　SK202出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・・・・・25
第23図　SD204・205、SD205出土遺物・・・・・・・・26
第24図　包含層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第25図　SD206・P201・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第26図　土錘の重量×孔径グラフ ・・・・・・・・・・・33

写真図版目次

図版１－１　13－２地点全景　北東より
　　－２　12－７地点全景　南より
　　－３　６－７地点全景　南より
　　－４　３－１地点全景　東より
　　－５　３－２地点　南より
　　－６　３－３地点　南より
　　－７　３－13地点　東より
　　－８　２－２地点　東より
図版２－１　12－８地点全景　東より
　　－２　SK202　北より
図版３－１　SK202遺物出土状況　東より
　　－２　SK201　東より
　　－３　SK201遺物出土状況　東より
　　－４　SD201～3・205　北より
　　－５　SD204　西より
第４図　　出土遺物（1）
第５図　　出土遺物（2）
第６図　　出土遺物（3）

表目次

第１表　周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第２表　調査地点一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第３表　12－７地点遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・ 28
第４表　SK201遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第５表　SK202遺物観察表（1）・・・・・・・・・・・・・ 29
第６表　SK202遺物観察表（2）・・・・・・・・・・・・・・30
第７表　SK202遺物観察表（3）・・・・・・・・・・・・・・31
第８表　SK202遺物観察表（4）・・・・・・・・・・・・・・31
第９表　SD205遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第10表　包含層出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・32

Ⅰ　調査に至る経緯

鵜坂Ⅰ遺跡は、平成7年県営公害防除特別土地改良事業に先立ち、婦中町教育委員会により実施された分布調査で新たに発見された遺跡である。古墳時代から近世を主体とし、105,400㎡の範囲に広がる。

平成９年３月、タカノ興発株式会社による分譲宅地「鵜坂の里」造成工事が計画され、平成10年に婦中町教育委員会が試掘確認調査を実施した。対象地58,295㎡のうち19,500㎡に遺跡の所在を確認した。工事との調整の結果、道路部分4,480㎡について発掘調査が必要と判断されたため、タカノ興発株式会社と婦中町教育委員会が平成17年３月協定を締結した。

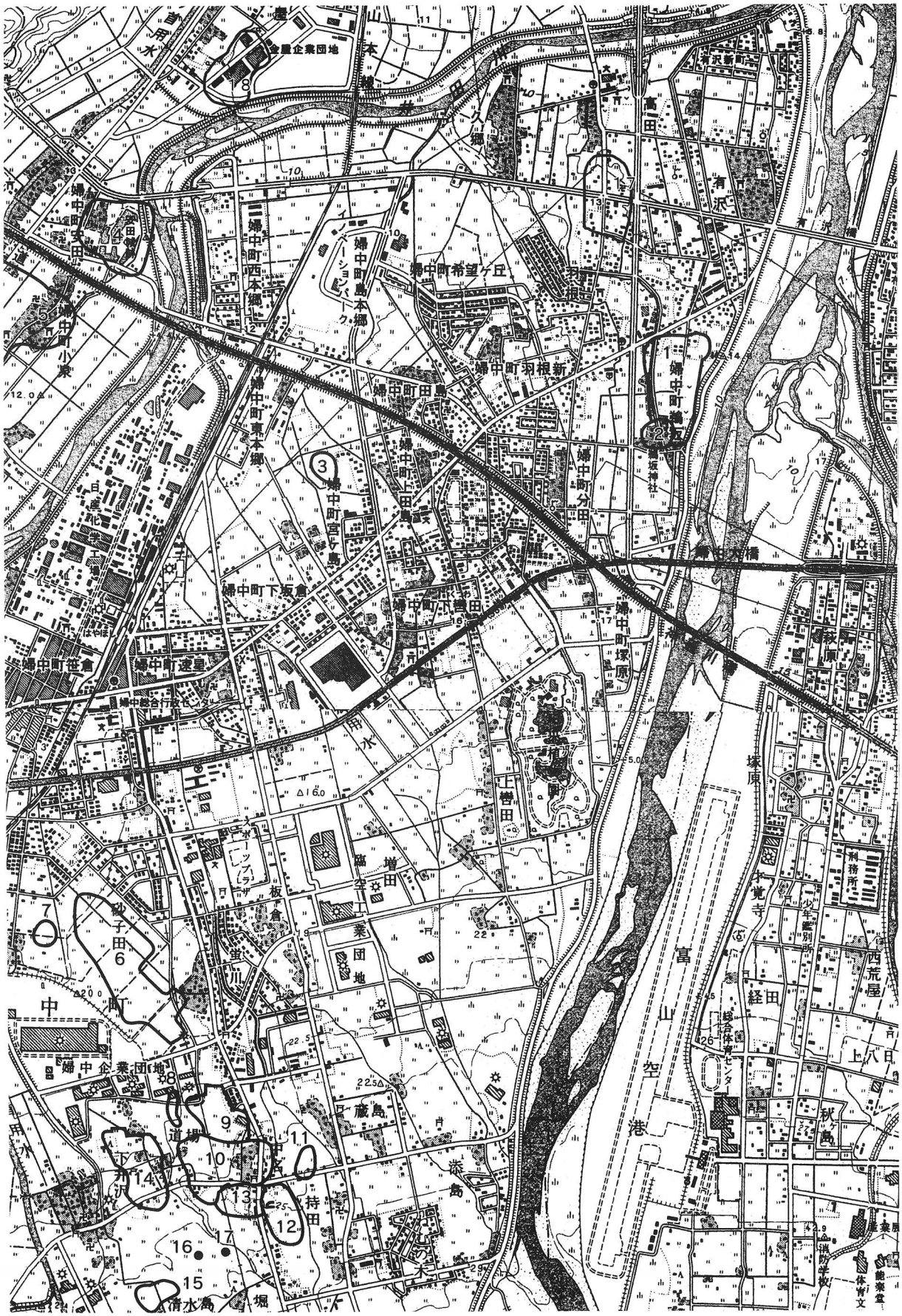
平成17年４月の市町村合併により、発掘調査は富山市教育委員会埋蔵文化財センターの監理の下、山武考古学研究所が実施することで調整がなされ、平成17年５月～７月に発掘調査を実施した（富山市教委2005）。この工事においては、宅地部分は保護盛土により保存された。

平成19年10月、鵜坂の里における個人住宅建築に伴う埋蔵文化財の取扱い協議において、平成17年の造成工事の際、タカノ興発株式会社が地震対策の要請から地盤調査で軟弱地盤と判断された区画について、本センターに事前の協議なしに保護盛土部分より下まで地盤改良が行われていた事実が判明した。このため、タカノ興発株式会社に重機提供を求め、建築予定地２区画の検証を行ったところ、地盤改良工事は地表下１mまで及んでおり、遺構面が損壊された区画１か所、遺物包含層下部まで改良が及んだ区画１か所を確認した。

このため、地盤改良を行った５区画を含む未建築の７区画についても、同様に遺構の遺存状況を確認する作業が必要と判断されたため、タカノ興発株式会社と協議を行い、①市埋蔵文化財センター職員立会の上民間発掘調査組織による掘削確認を行い、遺存状況を確認する。②掘削に要する重機はタカノ興発株式会社が提供する。③遺跡の損壊が認められる場合は引続き発掘調査を行う。④調査等に要する経費はタカノ興発株式会社が負担することとし、この方針について11月1日付けで市教委、タカノ興発株式会社、山武考古学研究所の三者で協定を締結した。

検証作業の結果、２区画は遺構面から20cm下まで地盤改良が及んでおり損壊が確認された。他の２区画は遺物包含層10cmまで地盤改良が及んでいた。残る5区画は遺物包含層・遺構が保護されていることを確認した。以上の結果に基づき、損壊が確認された２区画は全面遺構検出作業を行ったが、遺構は確認されなかったため、検証調査を終了した。遺物包含層まで地盤改良が及んでいる２区画については、遺構面まで10cm以内となり遺構が保護できない状況が生じたため、発掘調査が必要と判断された。このため、この２区画については、建物建築部分計128㎡分を引続き発掘調査を実施することで協議が整った。

発掘調査は平成19年11月14日まで行い、同日付けでタカノ興発株式会社へ引渡し、すべての作業を完了した。その後平成20年８月30日まで整理・報告書作成を行った。なお調査は、タカノ興発株式会社の全面的な協力により円滑に完了した。（古川）



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25,000）

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

鵜坂Ⅰ遺跡は、富山県富山市西部の神通川左岸沿いに位置する。なお、合併以前においては婦負郡婦中町に属していた地区となる。遺跡のある地域は東を神通川に、西～北を呉羽山丘陵に、南を神通川扇状地に囲まれた低地帯で、この低地帯の中央には神通川支流の井田川が西南から東北方向に向かって走流し、この井田川と神通川に挟まれた地区に本遺跡は立地する。当地区には南東から北西方向に走流する神通川の旧河道が複数認められ、神通川の氾濫を受けやすい地形を呈していたことが理解できる。

遺跡内は、神通川沿いの低地帯とその西側に接して南北に走向する台地からなる。低地帯は現状においては平坦となるが、平成10年度の試掘調査および平成17年度の発掘調査の結果より神通川沿いの東側に微高地が、中央部に埋没谷が確認されている。埋没谷の西に南北方向に走向する台地が存在し、台地の西側には旧神通川の河道が走流していることが知られる。遺跡はＡ～Ｃの３区に分かれ、Ａ区が遺跡北東部の微高地上、Ｂ区が西部の台地上、Ｃ区が遺跡南東部の微高地上に位置する。

2　歴史的環境

周辺は、旧石器時代から中・近世までの各時代の遺跡が存在するが、その分布は時代ごとに偏在性が認められる。

旧石器時代から縄文時代中期にかけては、本遺跡の北～西方に存在する呉羽山丘陵や射水丘陵裾部台地上に集中して分布し、縄文時代晩期では神通川の東の扇状地から低地にも分布する。

弥生時代から古墳時代にかけては、沖積低地にも集落遺跡が見られるようになり、本遺跡の北～西方の丘陵上に王塚古墳、勅使塚古墳を含む「国史跡」王塚・千坊山遺跡群、杉谷古墳群など多くの古墳・墳丘墓が構築され、県内でも有数の古墳密集地域となっている。王塚古墳・勅使塚古墳は県内最古級の大型前方後方墳で、それより先行する時期には六治古塚墳墓、富崎墳墓群、杉谷４号墓などの山陰地方との文化接触を物語る四隅突出墓を中心とした墳丘墓群が検出されている。古墳時代後期には呉羽山丘陵斜面に番神山横穴墓、金屋陣ノ穴横穴墓などの横穴が構築されるようになる。本遺跡ではＢ・Ｃ区より古墳時代の遺構・遺物が検出されており小規模な集落の存在が予想される。

古代では、低地部にも多くの集落が形成されるようになり、律令期の国郡制のもとでは婦負郡の郡域に相当する。婦負郡は「和名類聚抄」によると十余の郷名が知られるが、史料的に裏付けられる例は少なく、平城京出土木簡により川合郷のみ確認される。本遺跡周辺は大桑郷・高嶋郷・罡本郷のいずれかに該当することが想定されている（藤田富士夫2002）。本遺跡の名称となる鵜坂という地名は万葉集の中で越中守大伴宿祢家持が詠んだ「婦負郡の鵜坂河の辺りにして作る歌一首」に見られ、当地にある鵜坂神社は『延喜式』の神名帖に式内社として記載されている。鵜坂神社の北方に位置する本遺跡ではＡ～Ｃの各区より微量ながらも遺構・遺物が存在し、中でもＡ区においては畑址や土坑・溝が検出されている。

中世になると、本地域は新潟県小千谷市魚沼神社所蔵の大般若経嘉慶二年（1338）五月付の奥書「婦負郡宮河荘鵜坂社」などによって徳大寺領宮河荘の荘域内と推定される。推定される宮河荘内の中世

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡名	時　代	種別	番号	遺跡名	時　代	種別
1	鵜坂Ⅰ遺跡	古墳・古代・中近世	集落・生産址	11	持田Ⅰ遺跡	古代・中近世	集落
2	鵜坂寺遺跡	中世	社寺	12	中名Ⅱ遺跡	古代・中近世	集落
3	宮ヶ島Ⅱ遺跡	中近世	散布地	13	中名Ⅰ遺跡	古墳・古代・中近世	集落
4	安田城跡	中近世	城館	14	道場Ⅰ遺跡	中近世	集落
5	友坂遺跡	縄文・古代・中近世	集落・城館	15	清水島Ⅱ遺跡	中近世	集落
6	砂子田Ⅰ遺跡	古墳・古代・中近世	集落	16	堀Ⅰ遺跡	中近世	墓・塚
7	袋遺跡	古代	散布地	17	堀Ⅱ遺跡	近世	集落
8	道場Ⅱ遺跡	中近世	集落	18	金屋南遺跡	古代～近世	集落・墓・生産
9	中名Ⅵ遺跡	古代・中近世	集落	19	羽根下立遺跡	縄文・弥生・古代～近世	集落
10	中名Ⅴ遺跡	古墳・古代・中近世	集落				

遺跡としては本遺跡南方に所在する清水島Ⅱ遺跡、中名Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ遺跡、持田Ⅰ遺跡、道場Ⅰ遺跡、道場Ⅱ遺跡等が知られ、そのうち道場Ⅰ遺跡では中世荘園の物流拠点的遺構群が検出されている。本遺跡では平成17年度の発掘調査でＢ区より掘立柱建物・井戸・土坑が検出され、小規模な集落が存在したことが明らかとなっている。また、中世城郭では、豊臣秀吉が佐々成政を攻めた際の陣営となった白鳥城、その支城の安田城（国史跡）や大峪城などが存在する。　（折原）

Ⅲ　調査の概要

１　調査の経過

発掘調査は、平成19年11月4日より開始し、同年11月16日に終了した。

11月４日　発掘の準備を行う。

11月５日　盛土・表土除去は13－2地点より開始し、13－2、12－7・8地点を終了する。

11月６日　2－2、3－1・2・3・13、6－7地点の表土除去作業を行う。

11月７日　12－7・8地点の包含層掘り下げを行う。

11月９日　12－8地点の遺構調査を開始、12－7地点の調査を終了し、3－2・3・13、2－2地点の精査を実施、遺構や遺物包含層が無いことを確認する。

11月10日　12－8地点の遺構調査を継続する。

11月13日　12－8地点の遺構調査を継続する。

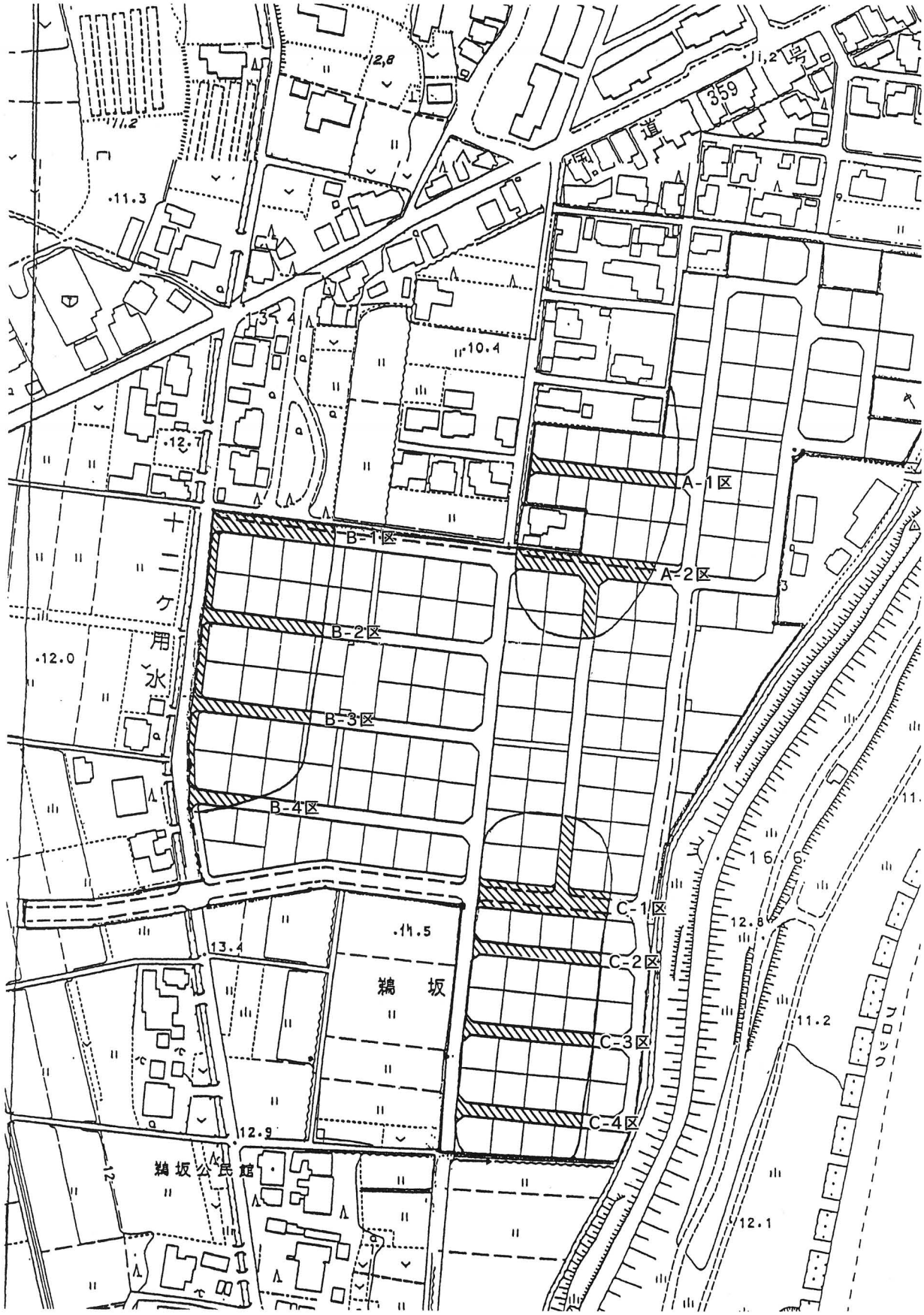
11月14日　12－8地点の調査を終了する。12－1・2・3、6－7地点の埋め戻しを開始する。

11月15日　各地点の埋め戻しを終了する。

11月16日　機材等撤収し、調査を終了する。

２　発掘調査の方法

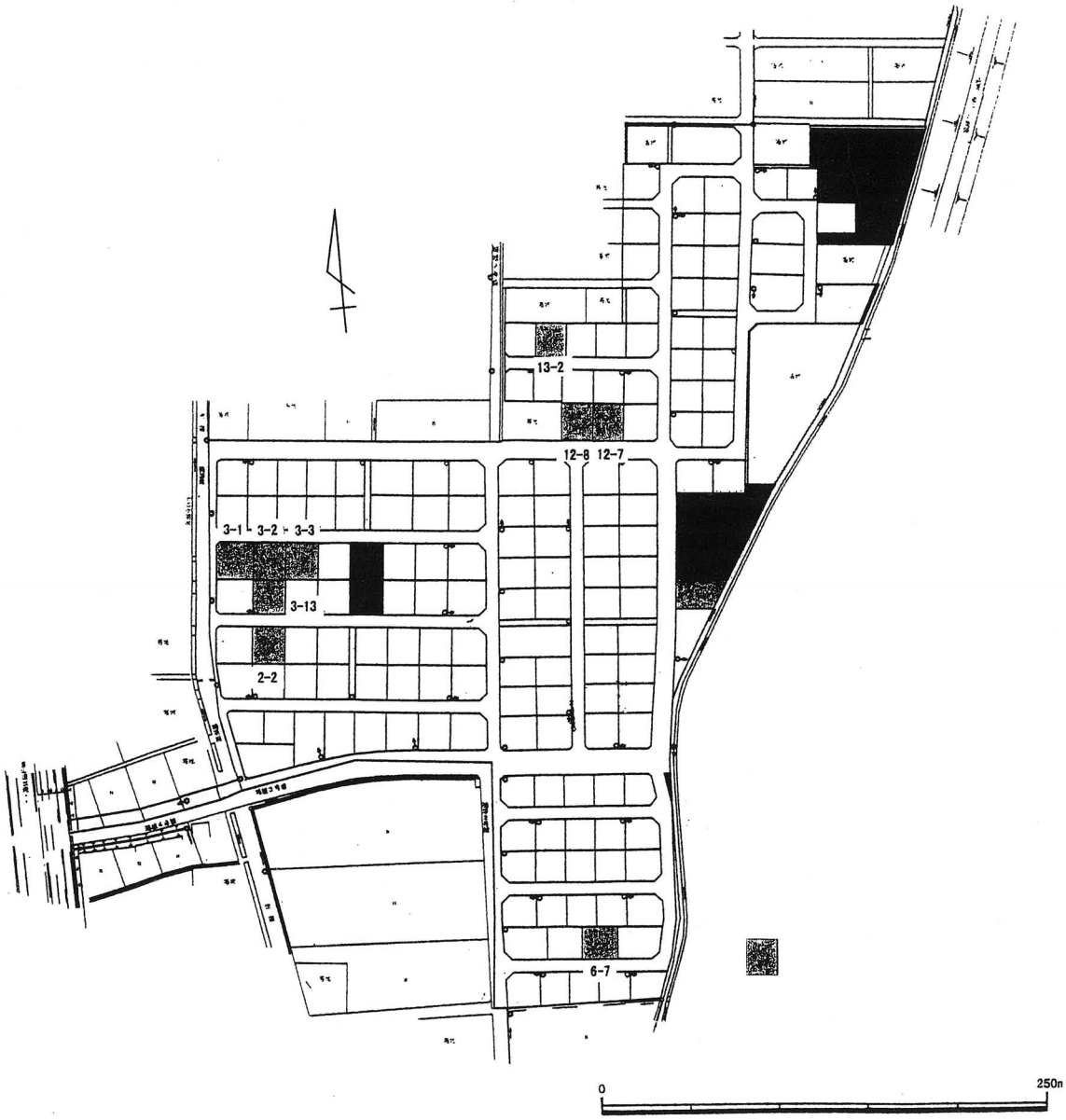
発掘調査は、宅地建物建設予定地９地点を対象として実施し、盛土及び表土除去後、遺構と遺物包含層の有無を確認し、宅地造成による削平が遺物包含層を保護できない深さまで掘削される場合、本調査を実施した。その結果、12－7・12－8・6－7の３地点で遺物包含層が確認され、13－2、3－1・3－2・3－3・3－13・2－2地点では遺物包含層及び遺構は確認されなかった。遺物包含層が確認された３地点の内、造成時の削平が遺物包含層の影響を及ぼす12－7・12－8地点が本調査対象となった。



調査区

0 (1：2,500) 250m

第2図　鵜坂Ⅰ遺跡平成17年度調査区



第３図　平成 19 年度調査地点

調査地点名は建設予定の宅地区画名をそのまま用い、所在地と調査面積及び平成17年度発掘調査の区名との対応は第２表の通りとなる。

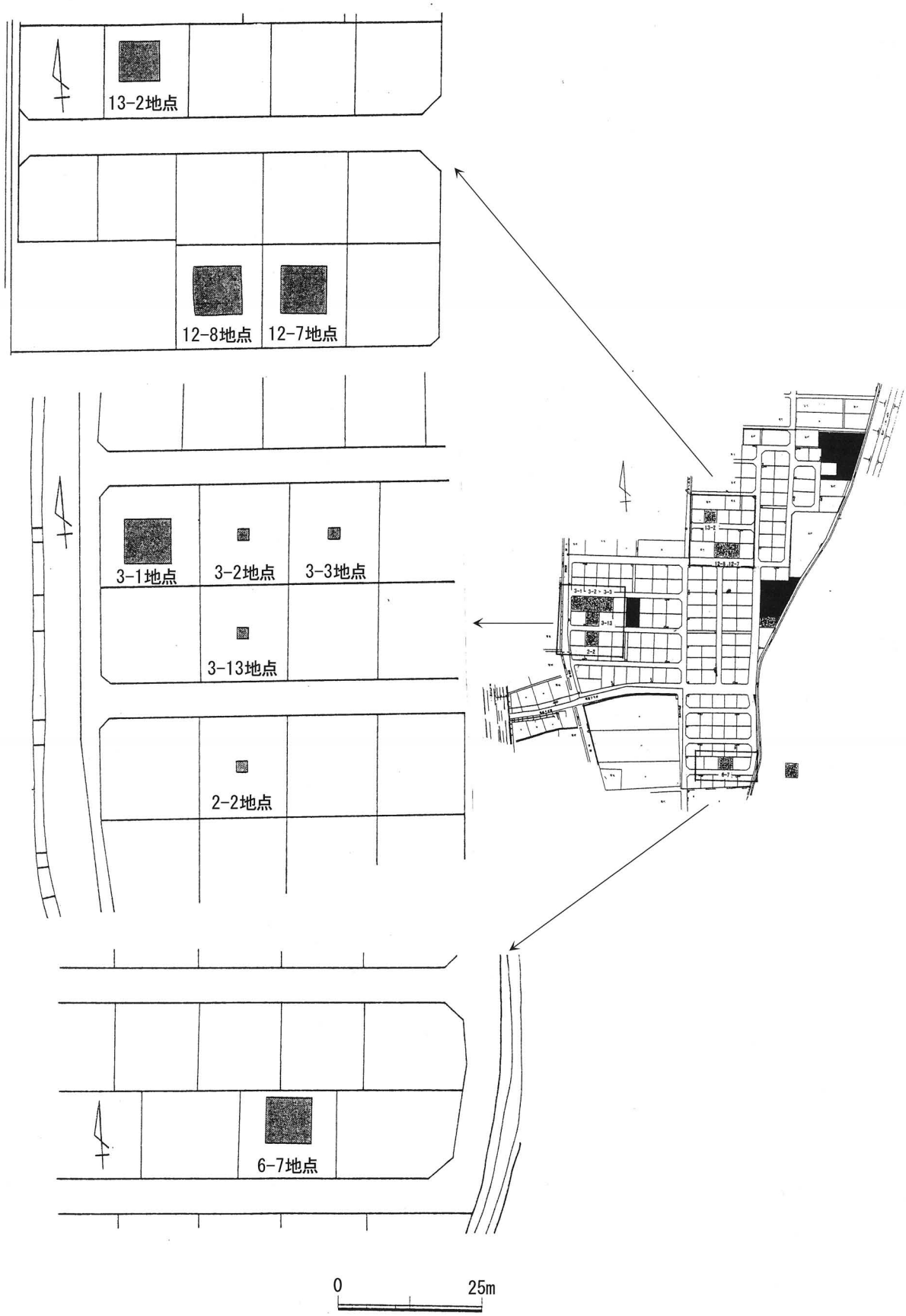
グリッドは平成17年度発掘調査区のグリッドを踏襲し、全ての地区を覆うように公共座標を用い10ｍ×10ｍのグリッドを設定した。呼称方法は大グリッドの東西軸を西よりアルファベットでＡ・Ｂ・Ｃ・・・、南北軸を北より00・０・１・２・３・・・として西北の交点を代表させた。

表土は重機を用いて除去し、遺物包含層掘り下げ及び遺構確認作業は人力を用いて実施した。遺構平面図及び断面図は1/20を基本縮尺とした。写真撮影は35㎜判白黒ネガ、35㎜判カラーポジ、６×７判白黒ネガを使用した。

３　整理調査の方法

整理調査は、発掘調査で得た資料・遺物を対象にして実施した。

出土遺物は細片に至るまで全量水洗いした後、インクジェットプリンターを使用して注記した。但し、注記不可能な微細片については注記したポリ袋に収納した。



第４図　各調査地点区域図

第２表　調査地点一覧表

調査地点	所在地	調査面積	遺構	遺物包含層	遺物	平成17年度近接調査区	備考
13－2	富山市婦中町鵜坂51－42	49㎡	無	無	無	A-1区	
12－7	富山市婦中町鵜坂51－51	64㎡	無	有	土師器 土錘	A-2区	
12－8	富山市婦中町鵜坂51－52	64㎡	土坑2基　ピット 畑跡	有	土師器・須恵器・灰釉陶器・土錘・製塩土器・石製品	A-2区	
6－7	富山市婦中町鵜坂51－179	64㎡	溝1条　　ピット	無	無	C-4区	遺物の出土は無いが、中世遺物包含層に対応する層は存在。
3－1	富山市婦中町鵜坂51－144	4㎡	無	無	無	B-2区	
3－2	富山市婦中町鵜坂51－115	4㎡	無	無	無	B-2区	
3－3	富山市婦中町鵜坂51－116	4㎡	無	無	無	B-2区	
3－13	富山市婦中町鵜坂51－126	4㎡	無	無	無	B-3区	
2－2	富山市婦中町鵜坂51－132	4㎡	無	無	無	B-3区	

４　基本層序

基本層序は平成17年度調査時の基本層序に従う。

Ａ地区

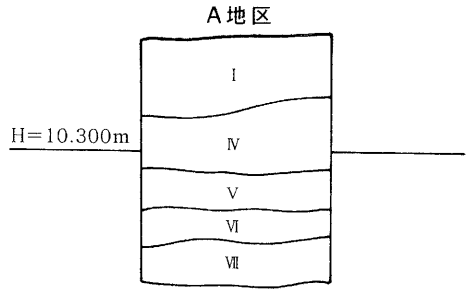
Ⅰ層　　表土

Ⅳ層　　暗灰褐色砂質土

Ⅴ層　　暗灰褐土

Ⅵ層　　黒褐色粘質土　古代包含層

Ⅶ層　　黄灰褐色砂質土　遺構確認面



第５図　Ａ地区の基本層序

Ｂ地区

Ⅰ層　　表土

Ⅰ′層　　表土の酸化層

Ⅴ層　　暗灰褐色土

Ⅵ層　　黒褐色粘質土　中世遺物包含層

Ⅶ層　　黄灰褐色砂質土　遺構確認面

Ｃ地区

Ⅰ層　　表土

Ⅰ′層　　表土の酸化層

Ⅱ層　　褐色砂質土

Ⅲ層　　灰褐色砂質土

Ⅳ層　　暗灰褐色砂質土

Ⅴ層　　暗灰褐色土

Ⅵ層　　黒褐色粘質土

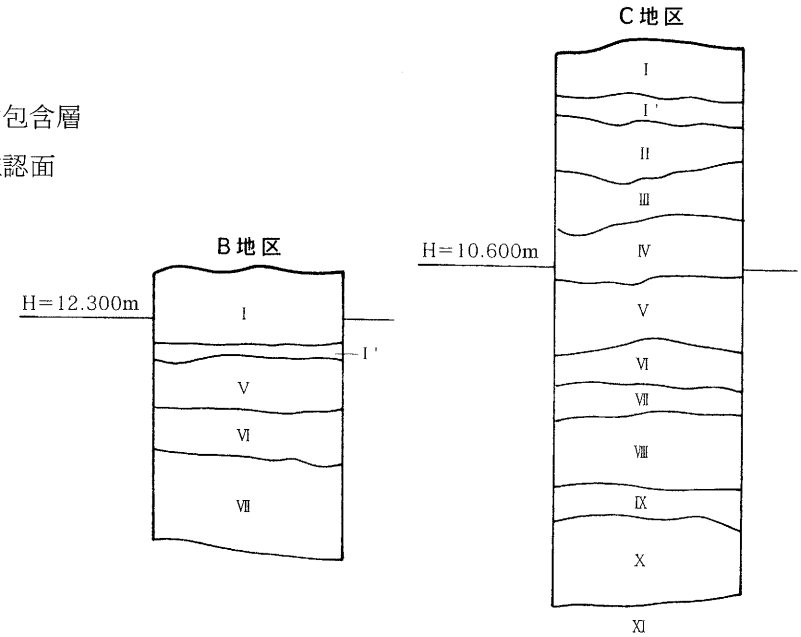
Ⅶ層　　黄灰褐色砂質土

Ⅷ層　　灰褐色砂質土

Ⅸ層　　灰褐色土

Ⅹ層　　黒褐色粘質土　古墳時代包含層

ＸＩ層　黄灰色砂層　遺構確認面



第６図　Ｂ・Ｃ地区の基本層序

５　各地点の概要

今回調査した各地点は９地点に及ぶが、この内の13－2・3－1・3－2・3－3・3－13の６地点では遺物包含層及び遺構が無く、12－7・12－8・6－7地点において遺物包含層が確認されている。遺物包含層が確認された３地点の内、６－７地点は造成による削平が遺物包含層に影響を与えないため本調査対象外となり、影響のある12－7及び12－8地点に関しては本調査を実施し、この内の12－7地点は遺物が少量出土しただけで、12－8地点は多量の遺物とともに遺構が検出されている。12－8地点以外の６地点については本項に概要を記すだけとし、12－8･12－7･6－7地点の詳細については次章に記述する。

13－2地点（第７図　　図版１－１）

遺跡北東部、平成17年度調査Ａ－１地区の北側に位置する。調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。土層の堆積は現地表面より約１mの深さまで盛土となり、盛土下にＡ地区基本層序のＶ層暗灰褐色土、Ⅶ層黄灰褐色砂質土の順序で堆積しており、古代包含層に相当するⅥ層黒褐色粘質土が消失している。

12－７地点（第７図　　図版１－２）

遺跡北東部、平成17年度調査Ａ－２地区の北側に位置する。調査の結果、遺物包含層が検出されているが、遺物は少量で、遺構は無い。土層の堆積は現地表面より約1.2mの深さまで盛土となり、盛土下はＡ地区基本層序のＶ層暗灰褐色土上面まで削平を受けているが、僅かであるがＩ層表土及びⅣ層暗灰褐色砂質土が部分的に残存し、Ｖ層以下は古代包含層であるⅥ層黒褐色粘質土、遺構確認面であるⅦ層黄灰褐色砂質土の順序で堆積している。遺構確認面であるⅦ層は北東方向にやや傾斜しており、本地点の東方に埋没谷が存在することを予想させる。

12－８地点（第7図　　図版２・３）

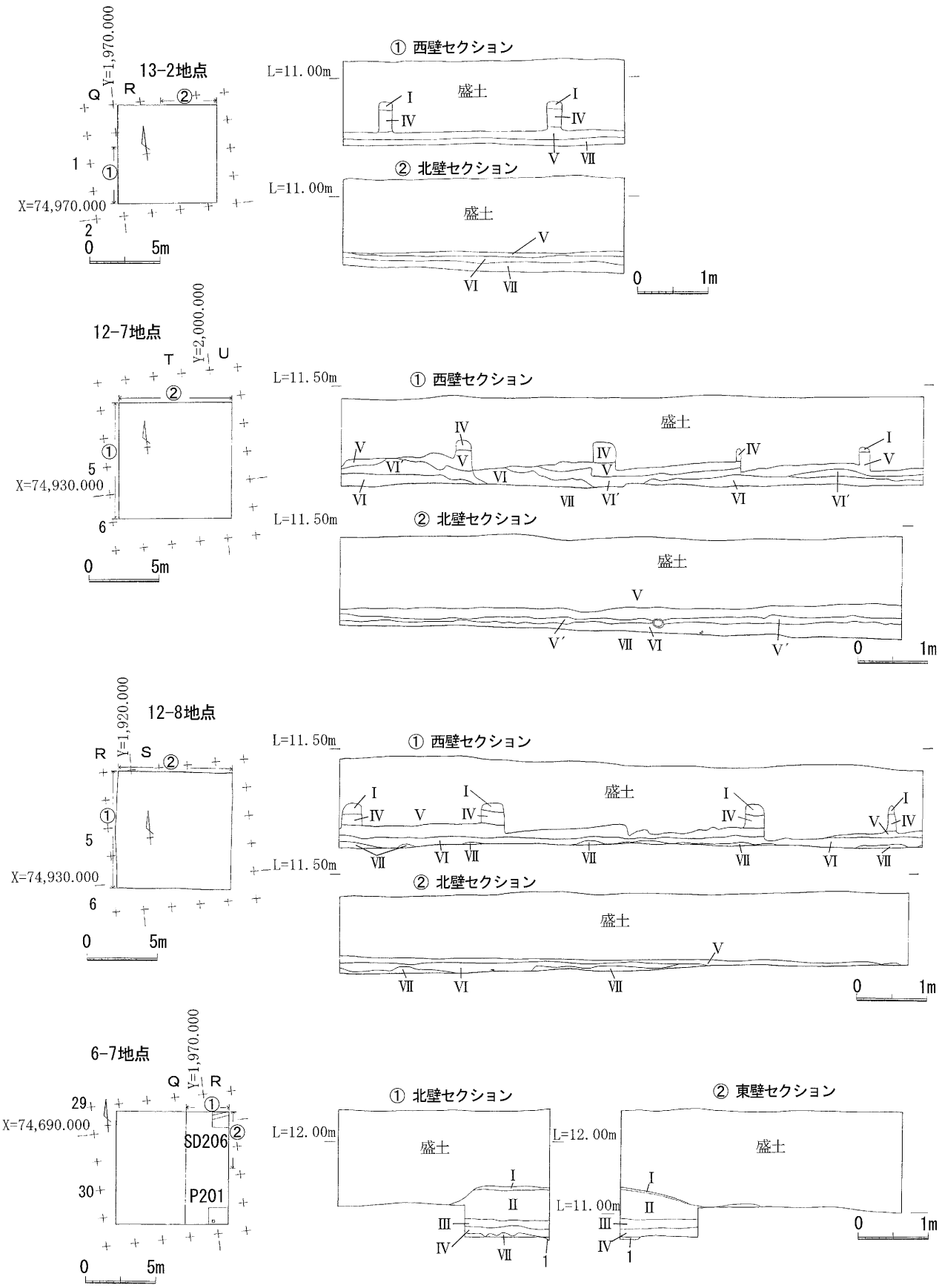
遺跡北東部、平成17年度調査Ａ－２地区の北側に位置する。調査の結果、遺物包含層が検出され、多量の遺物と遺構が検出されている。土層の堆積は現地表面より約1.2mの深さまで盛土となり、盛土下はＡ地区基本層序のＶ層暗灰褐色土上面まで削平を受けているが、僅かであるがＩ層表土及びⅣ層暗灰褐色砂質土が部分的に残存し、Ｖ層以下は古代包含層であるⅥ層黒褐色粘質土、遺構確認面であるⅦ層黄灰褐色砂質土の順序で堆積している

６－７地点（第７図　　図版１－３）

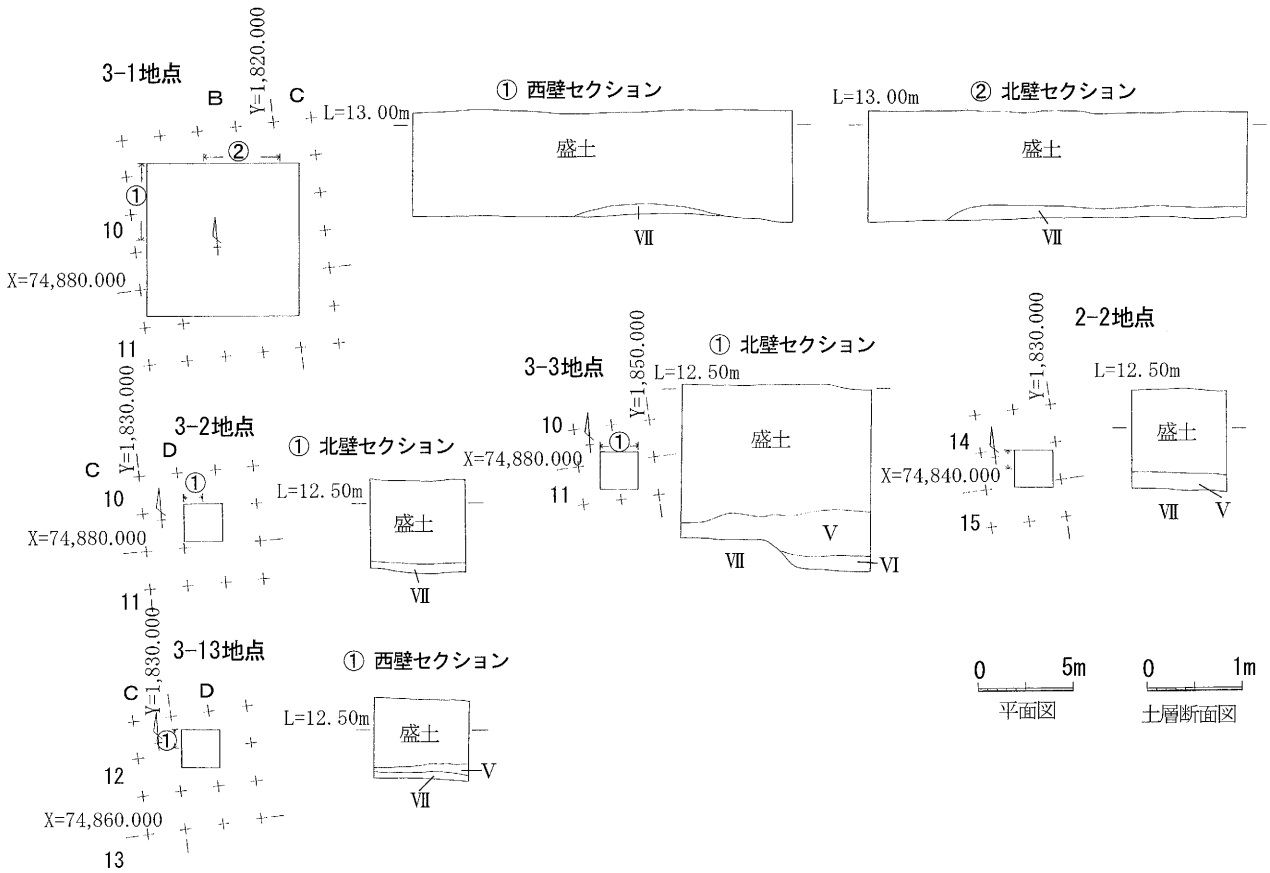
遺跡東南部、平成17年度調査Ｃ－４地区の北側に位置する。調査の結果、遺物の出土は無いが中世の遺物包含層に相当するＣ区基本層序のⅥ層黒褐色粘質土と遺構が検出されている。本調査は宅地造成に伴う削平が遺物包含層への影響が及ばないため実施しなかったが、遺物包含層の層厚等を確認するため一部を掘り下げ、遺構確認面となるⅦ層黄色砂層より溝とピットが検出する。土層の堆積は現地表面より約0.75～1.0mの深さまで盛土となり、盛土下はＣ地区基本層序のＩ層表土層、Ⅱ層褐色砂質土、Ⅲ層灰褐色砂質土、Ⅳ層暗灰褐色砂質土、中世に形成されたと推測されるⅥ層黒褐色粘質土、遺構確認面であるⅦ層黄灰褐色砂質土の順序で堆積している。

３－１地点（第８図　　図版１－４）

遺跡西部、平成17年度調査Ｂ－２地区の南側に位置する。調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。土層の堆積は現地表面より約0.9mの深さまで盛土となり、盛土下にＢ地区基本層序のⅦ層黄灰褐色砂質土となる。



第７図　13－2・12－7・12－8・6－7地点の平面と層序



第８図　３－１・３－２・３－３・３－13・２－２地点の平面と層序

３－２地点（第８図　　図版１－５）

遺跡西部、平成17年度調査Ｂ－２地区の南側に位置する。調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。土層の堆積は現地表面より約1.2mの深さまで盛土となり、盛土下にＢ地区基本層序のⅦ層黄灰褐色砂質土となる。

３－３地点（第８図　　図版１－６）

遺跡西部、平成17年度調査Ｂ－２地区の南側に位置する。調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。土層の堆積は現地表面より約1.1mの深さまで盛土となり、盛土下にＢ地区基本層序のⅦ層黄灰褐色砂質土となる。

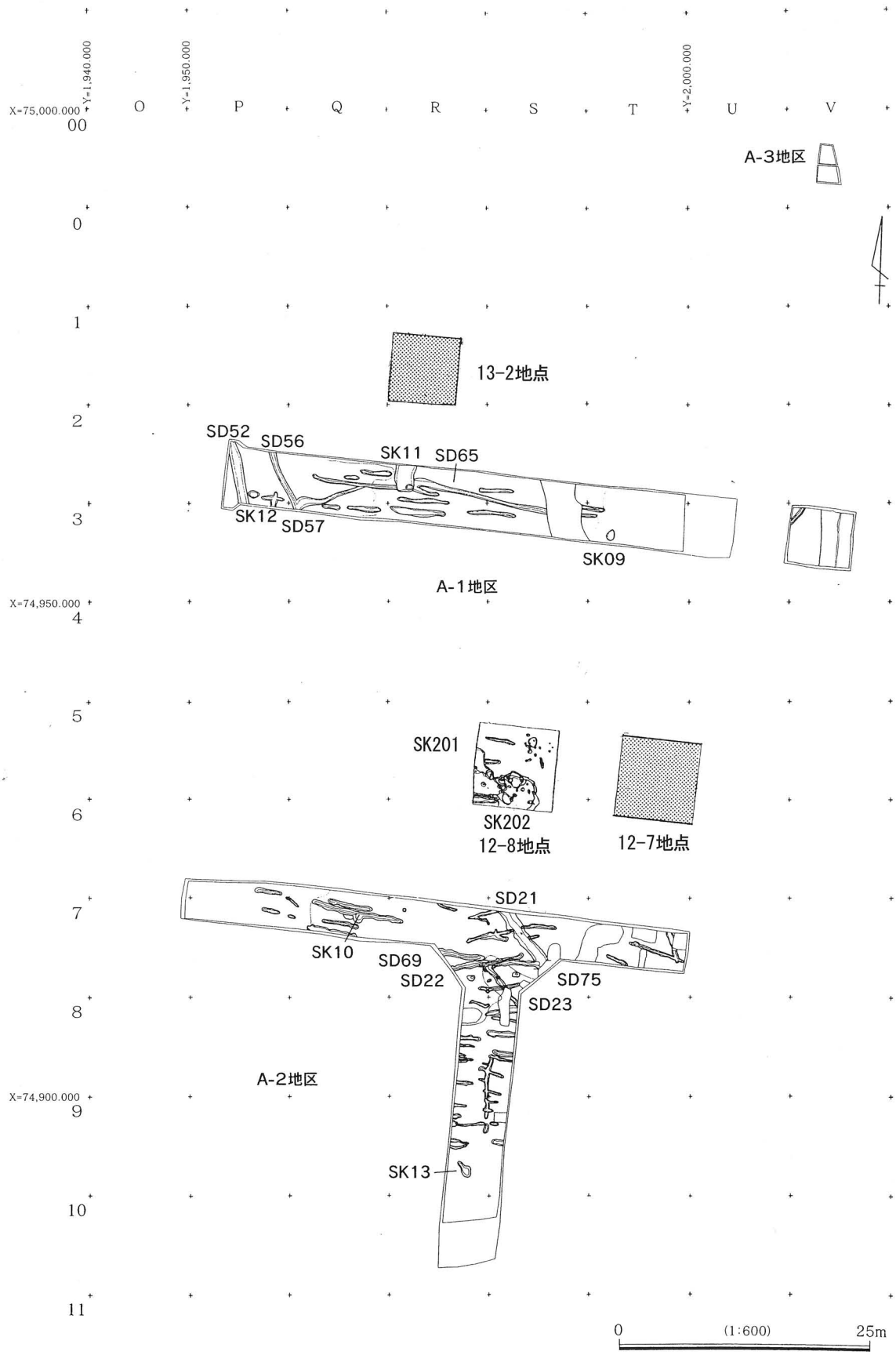
３－13地点（第８図　　図版１－７）

遺跡西部、平成17年度調査Ｂ－３地区の北側に位置する。調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。土層の堆積は現地表面より約1.1mの深さまで盛土となり、盛土下にＢ地区基本層序のⅦ層黄灰褐色砂質土となる。

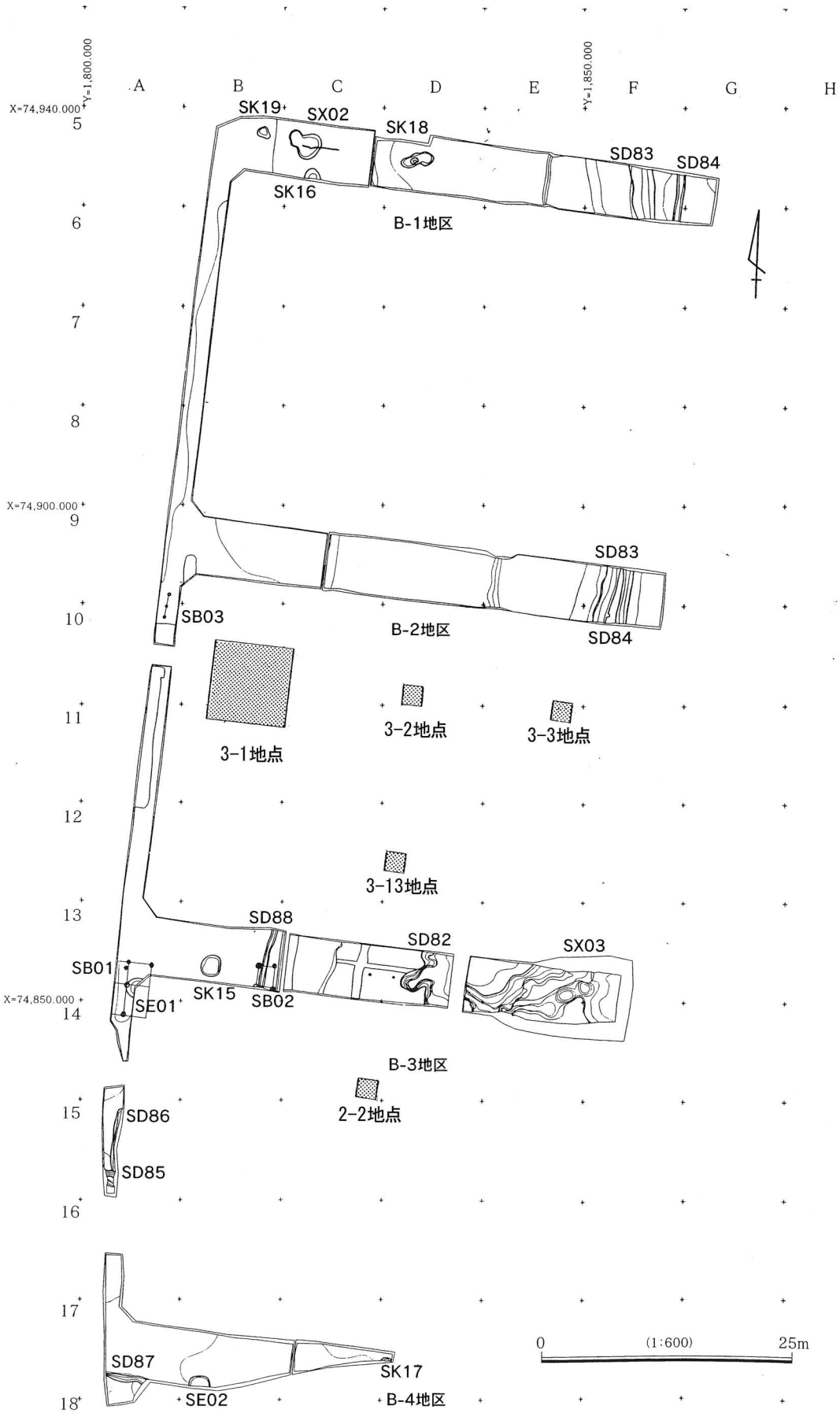
２－２地点（第８図　　図版１－８）

遺跡西部、平成17年度調査Ｂ－３地区の南側に位置する。調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。土層の堆積は現地表面より約0.9mの深さまで盛土となり、盛土下にＢ地区基本層序のⅦ層黄灰褐色砂質土となる。

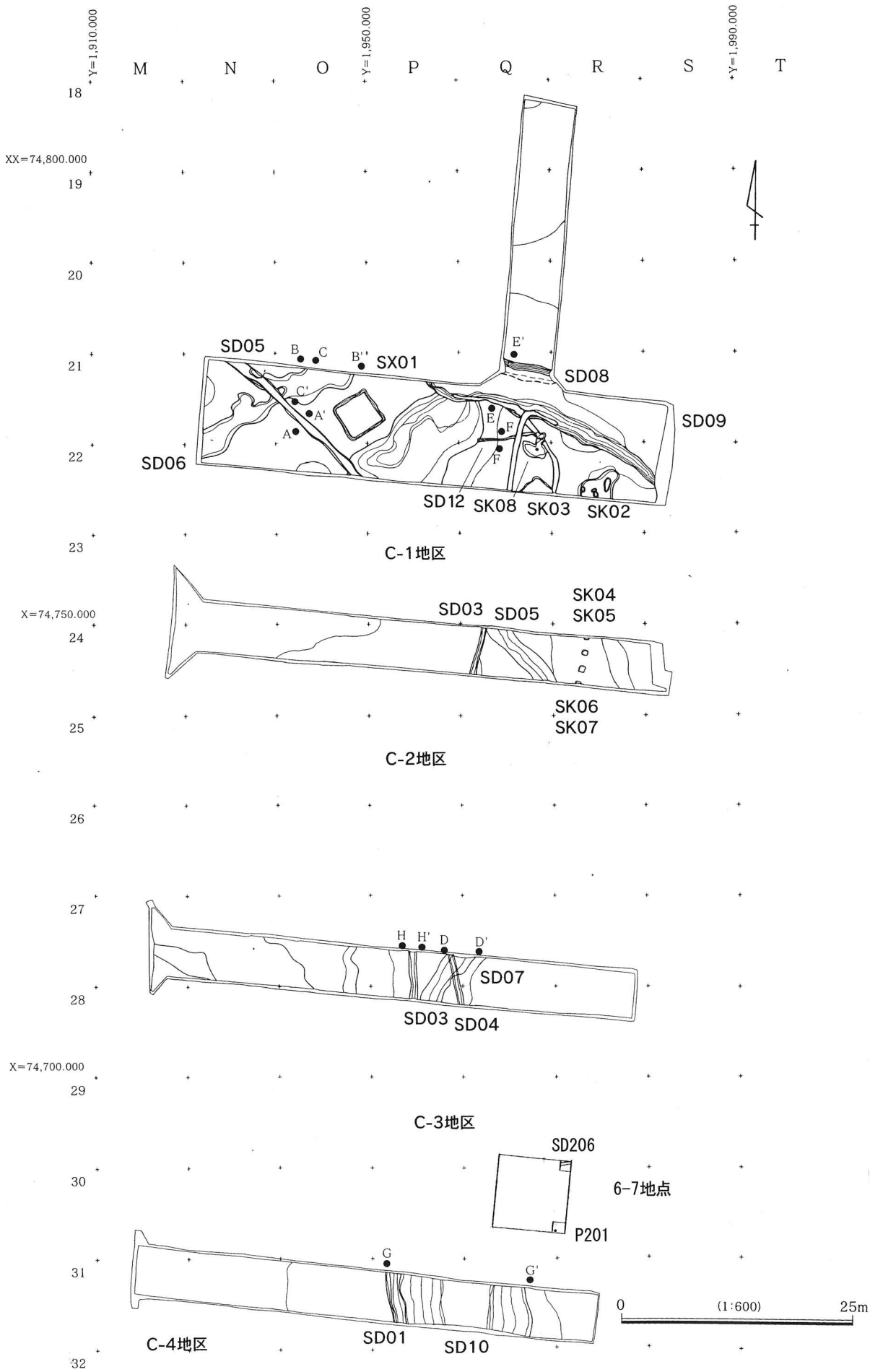
（藤田登）



第9図　平成17年度調査A地区と13－2・12－7・12－8地点



第 10 図　平成 17 年度調査 B 地区と 3-1・3-2・3-3・3-13・2-2 地点



第 11 図　　平成 17 年度調査 C 地区と 6-7 地点

Ⅳ　遺構・遺物

１　概要

今回の調査では、12－8・12－7・6－7の3地点で遺構・遺物が検出されている。12－8地点は平成17年度調査のＡ－２地区に隣接し、古代の遺物と土坑・溝が検出されている。12－7地点は平成17年度調査のＡ-２区に隣接し、古代の遺物が少量出土しただけである。６－７地点は平成17年度調査のＣ－４区に隣接し、中世と思われる溝とピットが確認されている。

２　12－7地点

遺物は土師器・土錘が出土し、遺構は検出されていない。

遺物（第12図　図版４）

１はロクロ土師器の有台坏である。柱状高台で、底部は右回転糸切りである。２～４は土錘である。２は孔部の両端の出入り口部周辺が孔部に直交する面を成し、３・４には面がみられない。

３　12－8地点

検出された遺構は古代の土坑２基・畑跡が存在し、遺物は須恵器・土師器・灰釉陶器・土錘・製塩土器が出土している。

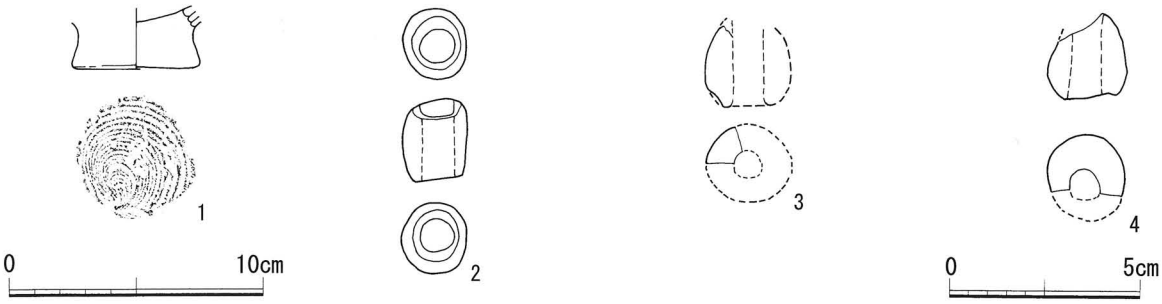
土坑

SK201（第14～17図　図版３－２・３）

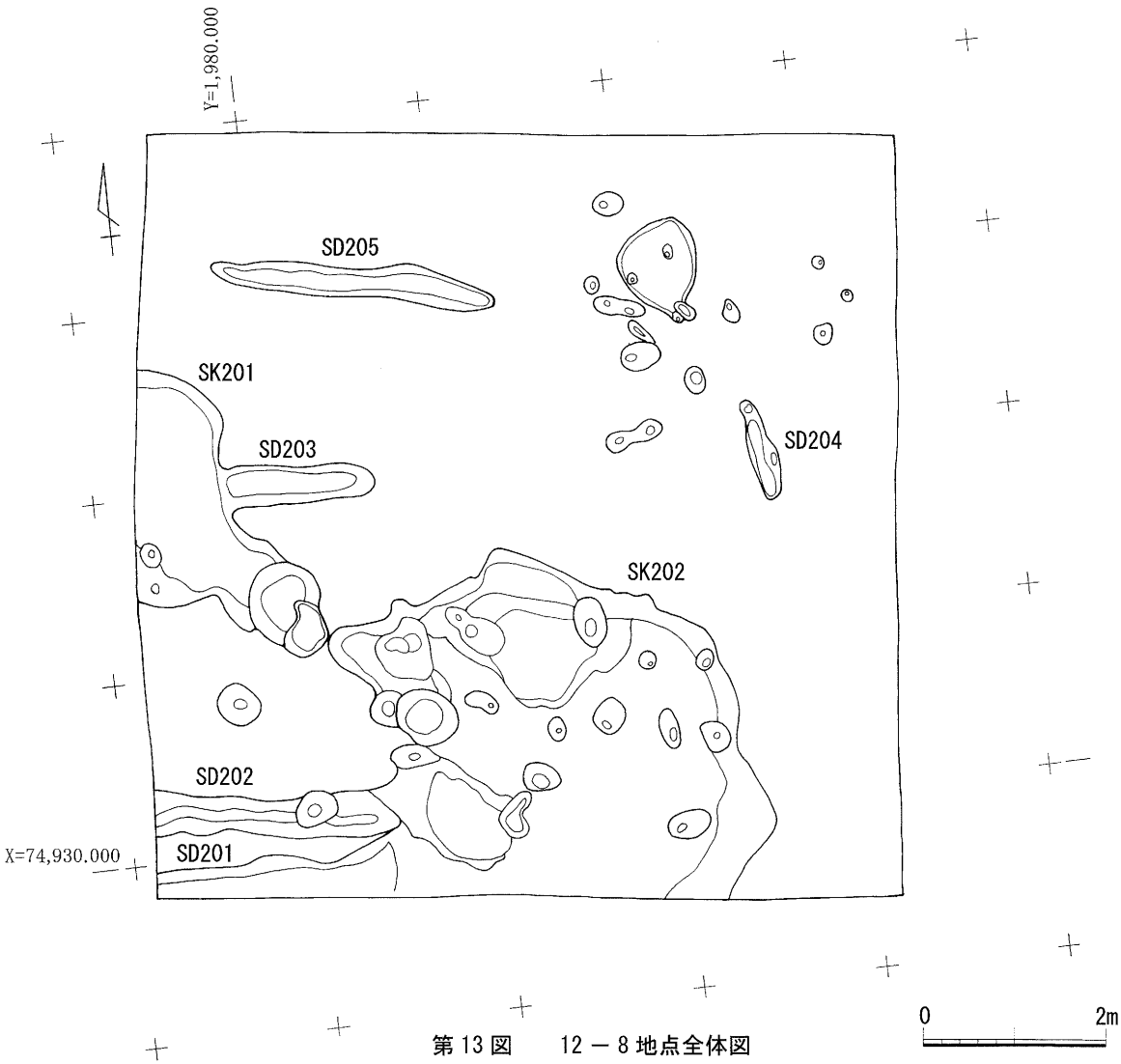
調査区の西端に位置する。畑址を切る。形状は長軸長350cm以上×短軸長250cm以上の不整形を呈し、深さは最深部で38cmを測り、底面は凹凸が激しい。遺物は覆土中より土錘と土師器片が出土し、その内の土錘は集中して出土しており、一網分の可能性が考えられる出土状況である。

SK202（第14～16・18～22図　図版２－２、３－１）

調査区の南部に位置する。畑址を切る。形状は長軸長520cm以上×短軸長490cm以上の不整形を呈し、深さは30cm前後で、底面は凹凸が激しく、ピットが多数存在する。壁は傾斜して立ち上がる。覆土を見ると、複雑な堆積状況が認められ、ここでは一応一基として取り扱っているものの数基の遺構が重複していると考えられる。遺物は覆土中より土錘・須恵器・土師器・石製品・自然礫が多量に出土している。土錘の出土状況を見ると集中が大きく２群にわかれ、土錘集中範囲の外側に石器・自然礫が多い傾向がみられる。



第12図　　12－7地点出土遺物



第13図　12－8地点全体図

畑跡

SD201～203・205（第14・23図　図版３－４）

調査区の西半部に畝溝状遺構と推測されるSD201～203・205が検出されている。SD201～203・205は長軸方向をN75～95°Wとし、覆土が灰褐色土で、ひとつのまとまりとして捉えることができる。SD201・202はSK202に、SD203はSK201に切られており、畑址はSK201・202以前と考えられる。畑サクの断面形状は幅30～45cm×深さ4～20cmの「U」字状形を呈している。底面は凹凸が比較的少ない。遺物は出土していない。

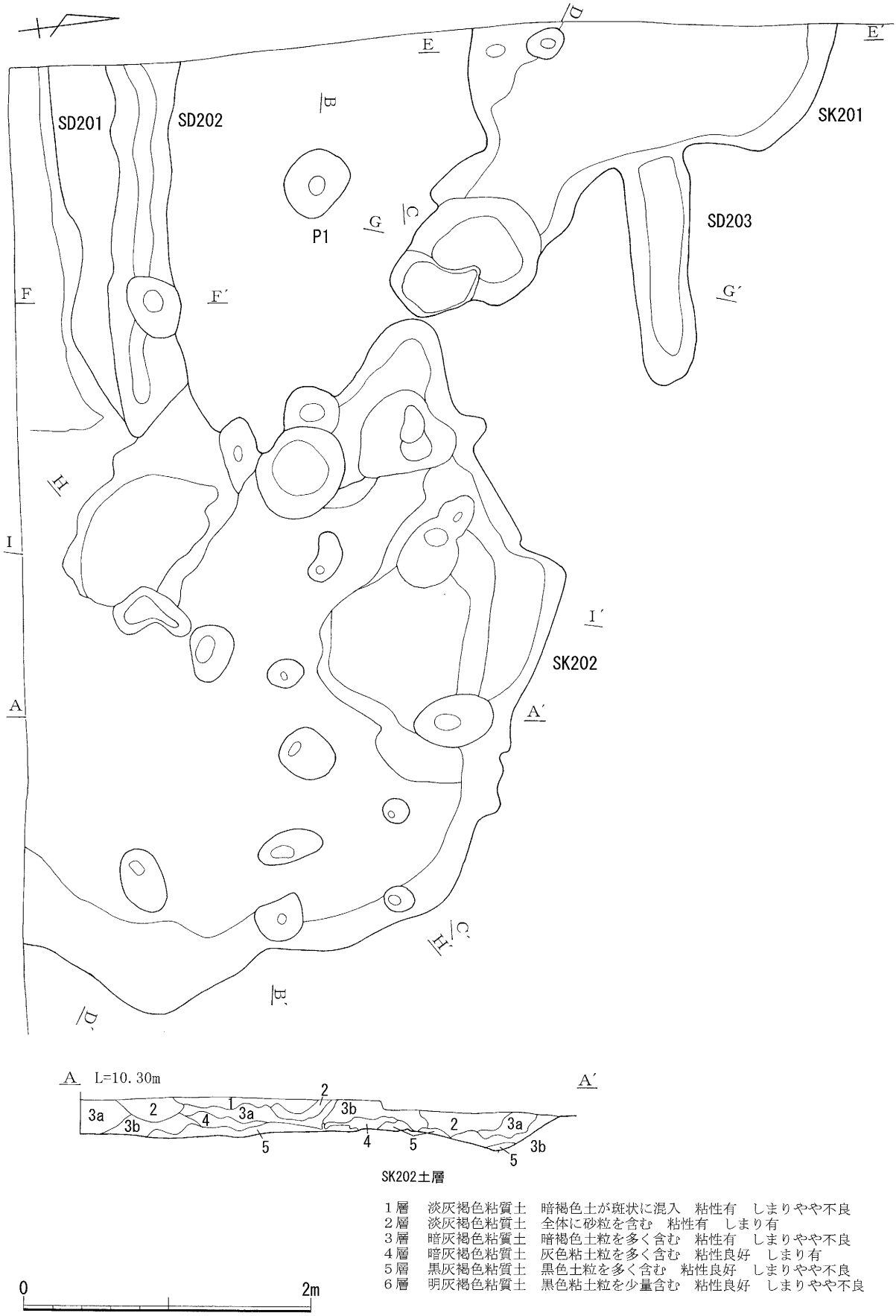
SD204（第23図　図版３－５）

調査区の東北部より検出されている。畝溝状遺構の一部と思われる。長軸方向をN12°Wとし、断面形状は幅30cm×深さ５cmの皿状形を呈している。覆土は黒褐色土で、SD201～203・205とは異なり、時期差があるものと推測される。底面は凹凸が激しい。遺物は出土していない。

遺物

SK201（第17図　図版４）

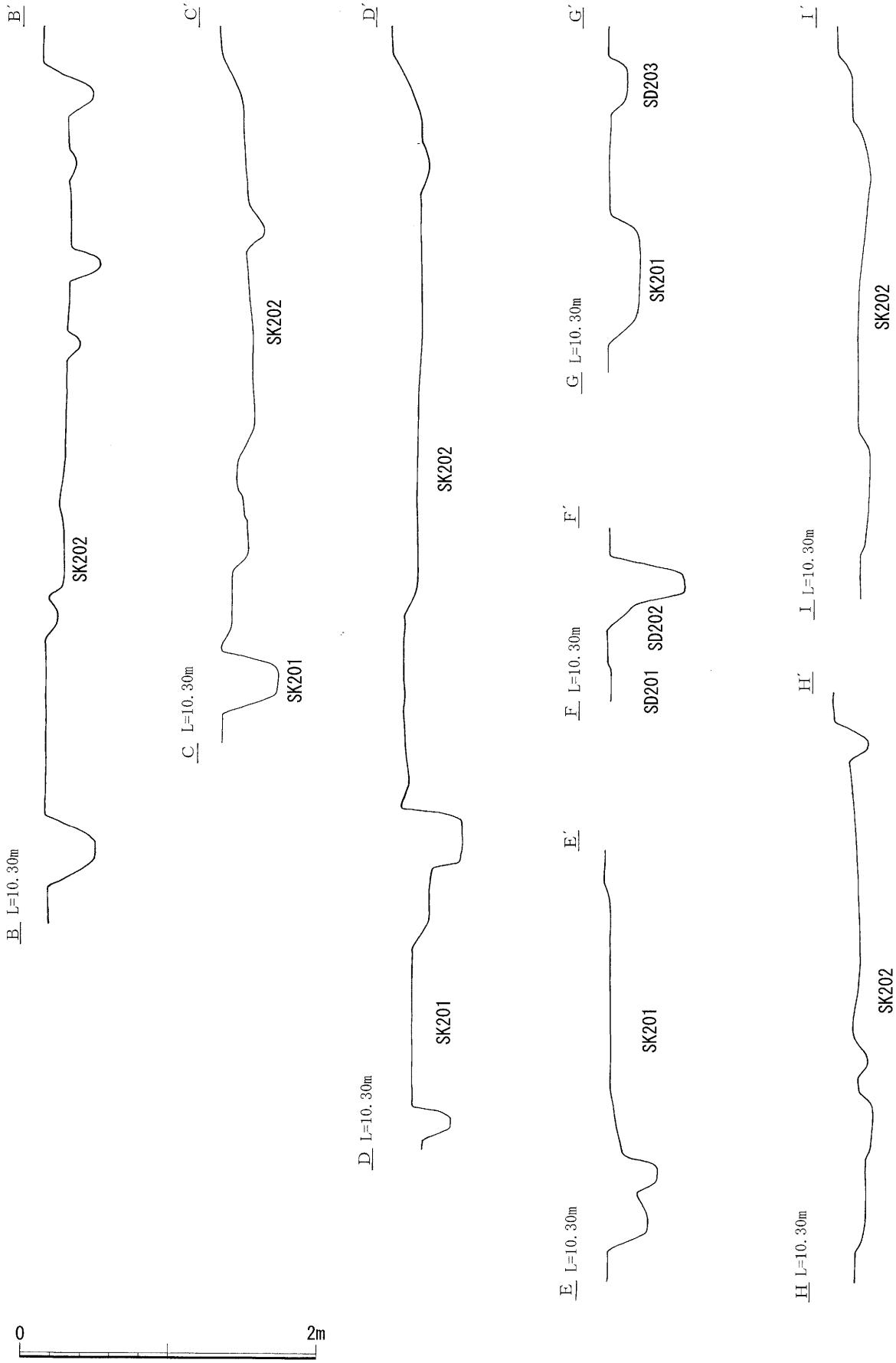
１はロクロ土師器の無台椀である。口縁部が僅かに外反し、底部は右回転糸切りである。２～27は土錘である。１～20は孔部径が６mm前後、重量が30ｇ以下の樽あるいは卵型（細辻真澄　2001・2004）を呈す土錘で、16～18は孔部下端が孔部に対して直交する面を有し、19・20は孔部両端に面を有している。21～27は孔部径が1.7mm前後、重量が約40～80gの卵から樽型を呈す土錘で、25～27には孔部両端の入り口に孔部に直交する面が見られる。



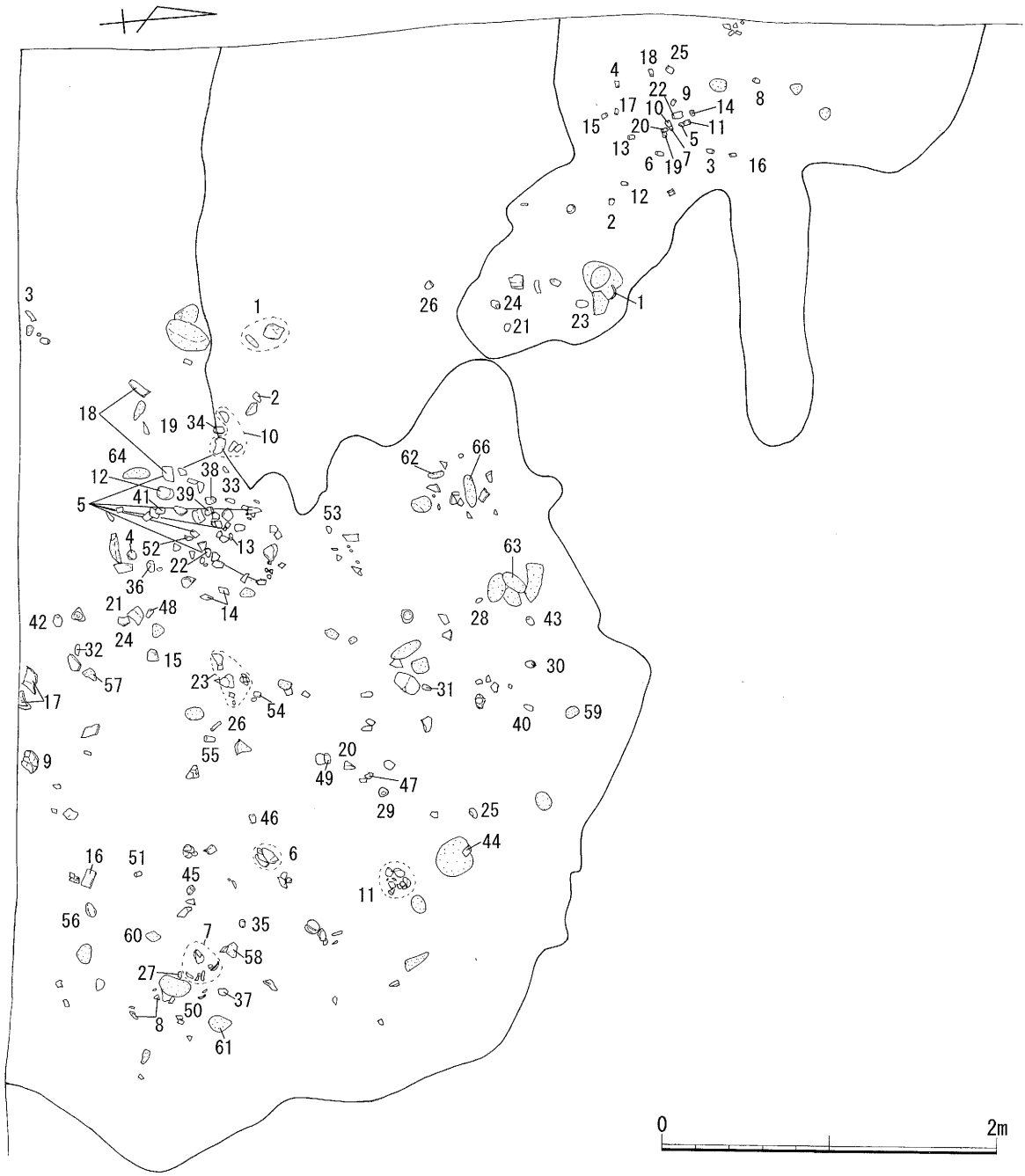
SK202土層

1層　淡灰褐色粘質土　暗褐色土が斑状に混入　粘性有　しまりやや不良
2層　淡灰褐色粘質土　全体に砂粒を含む　粘性有　しまり有
3層　暗灰褐色粘質土　暗褐色土粒を多く含む　粘性有　しまりやや不良
4層　暗灰褐色粘質土　灰色粘土粒を多く含む　粘性良好　しまり有
5層　黒灰褐色粘質土　黒色土粒を多く含む　粘性良好　しまりやや不良
6層　明灰褐色粘質土　黒色粘土粒を少量含む　粘性良好　しまりやや不良

第14図　SK201・202、SD201～03平面図



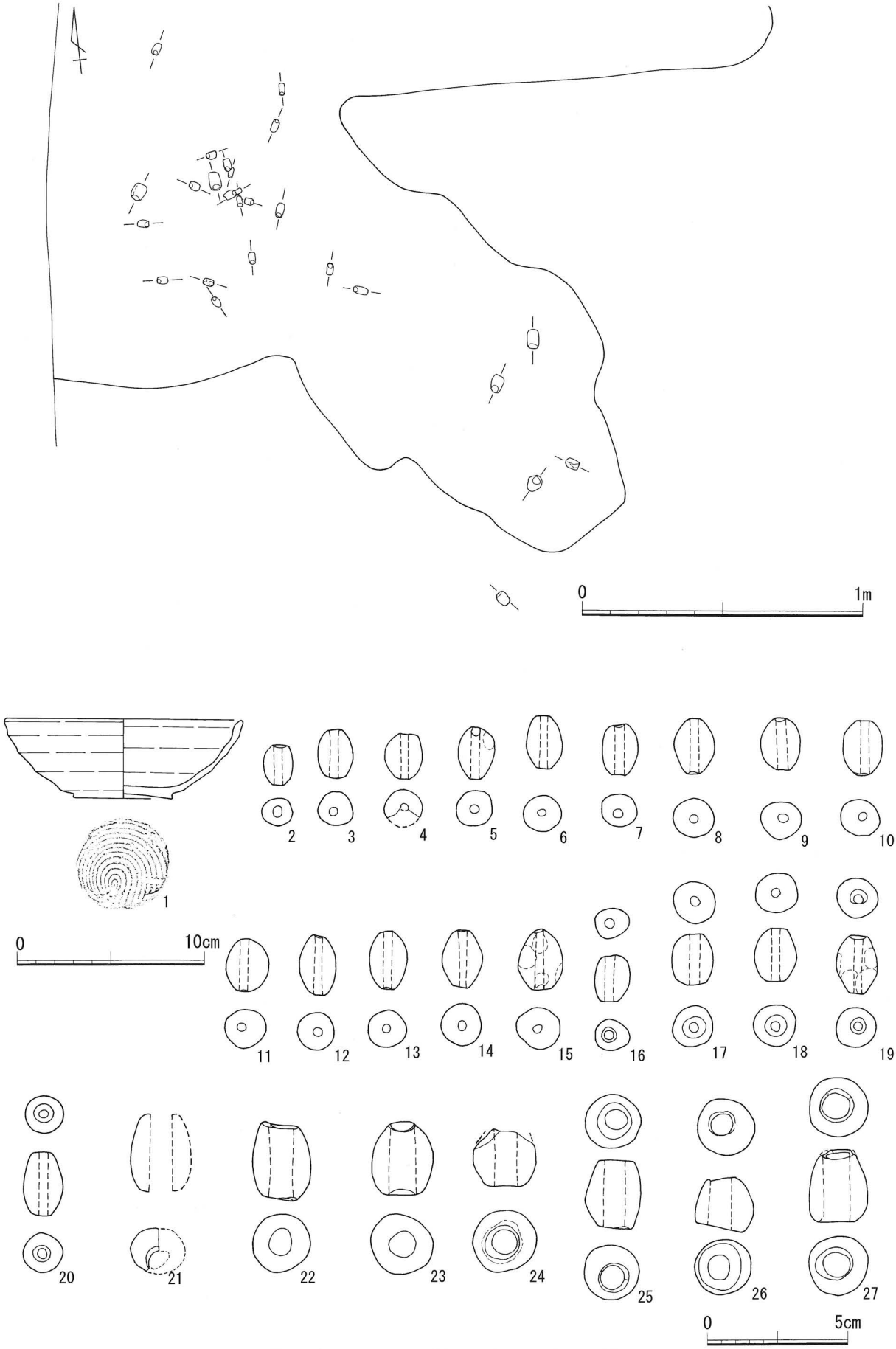
第 15 図　　SK201・202、SD201 ～ 203 断面図



第16図　　SK201・202遺物出土状況

SK202（第19～22図　図版４～６）

１～９はロクロ土師器無台椀である。１～４は口縁部が内湾気味に立ち上がり、５～９は口縁部が外反する。９の体部外面に黒色付着物がある。10はロクロ土師器椀で、口縁部が外反する。11はロクロ土師器の無台椀で、内外面全面に赤彩痕がみられる。12・13はロクロ土師器無台椀で、12は内面が黒色処理を施され、13はやや高めの高台である。14・15はロクロ土師器小型甕である。14は口縁部が受け口状となり、外面に煤が付着する。15はかなり小さな甕で、底部は糸切りである。16～18は土師器鍋で、口縁部は内側に折り返し丸く肥厚させる。19は須恵器双耳瓶の口縁部片で、口縁部の断面が三角形となる。20は須恵器双耳瓶の肩部片で、隆帯は台形断面となる。21は須恵器甕の胴部片で、外面叩き、内面当て目となる。22～25は製塩土器片である。22は口縁部片、23・24は胴部片、25は底部片で、全体の判明する資料は無いが平底型（戸潤幹夫　1983）を呈していたと推測される。26～56は



第 17 図　SK201 土錘出土状況及び出土遺物

第18図　SK202土錘出土分布状況

土錘である。26は細身の棒状を呈し、重量が10g以下である。27・28は俵型を呈し、重量が10～30gのやや小型で、28は孔部両端が面取り状となる。29～56は俵型を呈し、重量が40g以上となり、33～44は孔部の片端が面取り状と、45～49は孔部の両端が面取り状となる。57は砥石で、破砕礫の礫被面側に砥面が見られ、砥面は多角形状となる。58は磨石で、扁平な自然礫の片面に磨痕が、側面の3/4に敲打痕がみられる。59は磨石で、円盤状の自然礫の２面に磨痕が存在する。60は敲石で、円盤状の自然礫の側面3/4に敲打痕がみられる。61は磨石で、扁平な自然礫の２面に磨痕がみられる。62は磨石で、扁平な自然礫の片面に磨痕が、側面の２ヶ所に敲打痕がみられる。63は磨石で、扁平な自然礫の片面に磨痕が、側面端部に敲打痕がみられる。64は磨石で、棒状の自然礫の３面に磨痕がみられる。65は敲石で、棒状の自然礫の端面に敲打痕がみられる。66は砥石で、棒状の自然礫の３面に砥面が、側面３ヶ所に敲打痕がみられる。

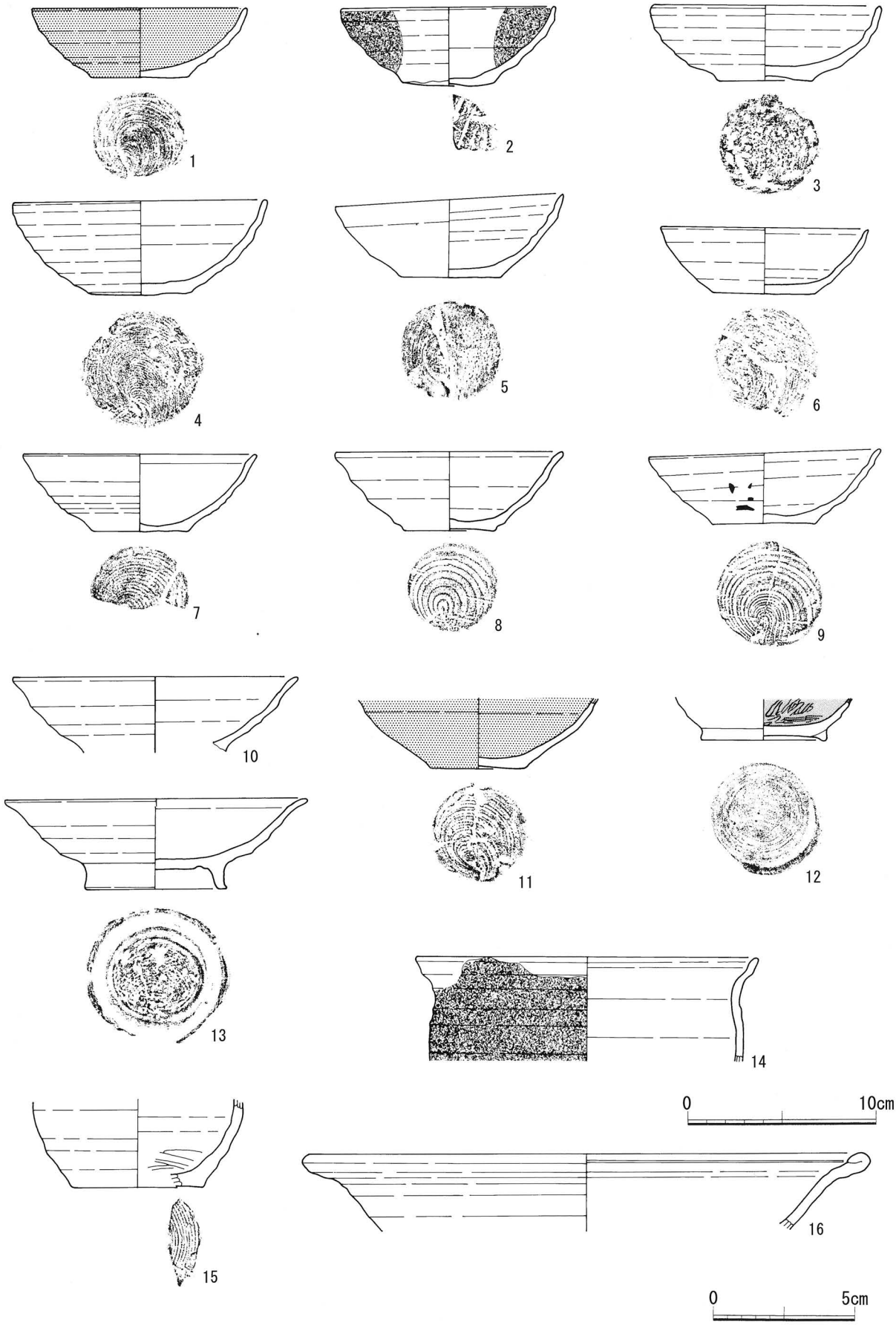
SD05（第23図　図版４）

１は土錘で、俵型を呈し、孔部片端に面が見られる。

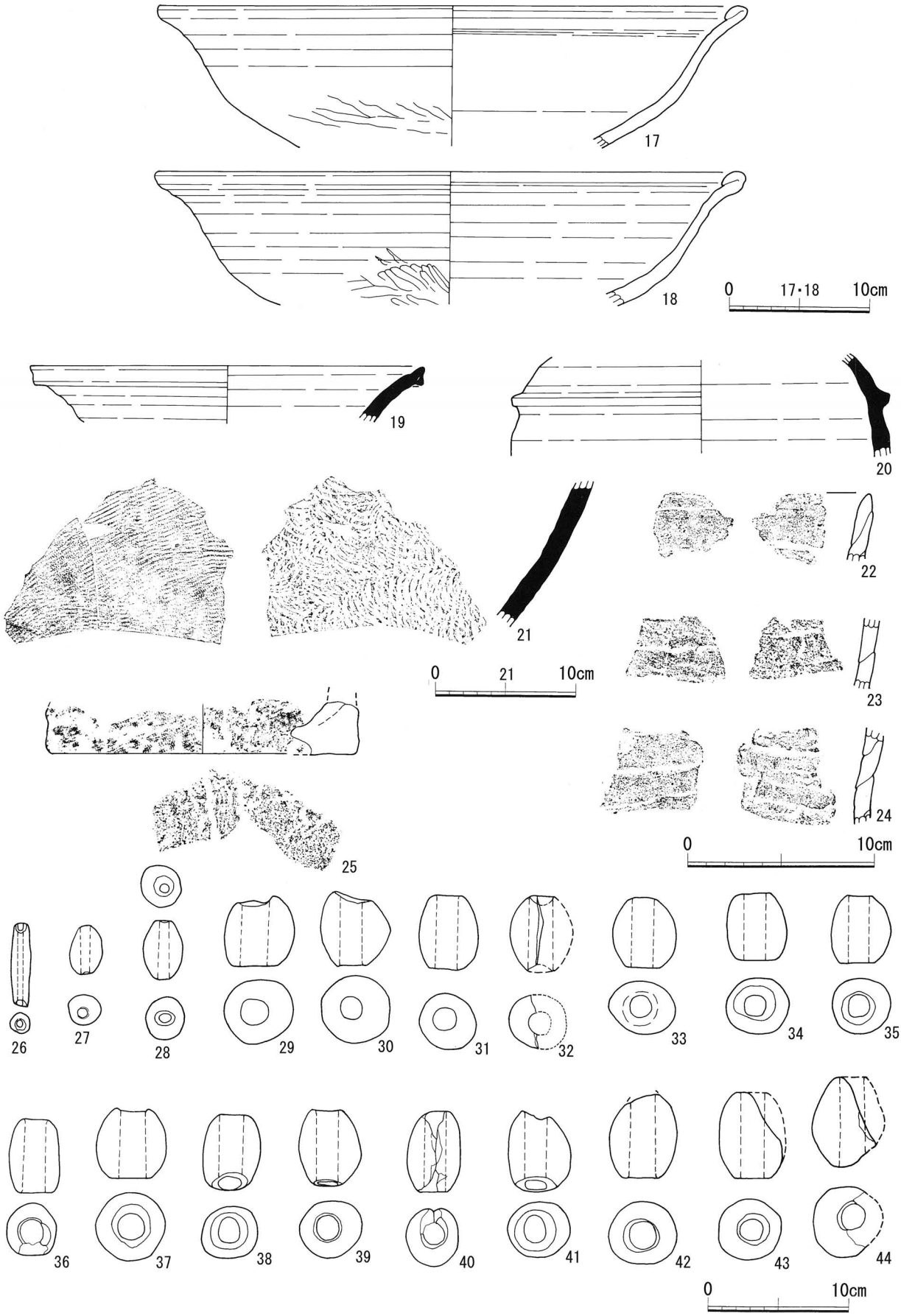
包含層出土遺物（第24図　図版６）

包含層より須恵器・土師器・製塩土器・土錘が出土しているが、SK201或いはSK202のいずれかに伴うものと思われる。

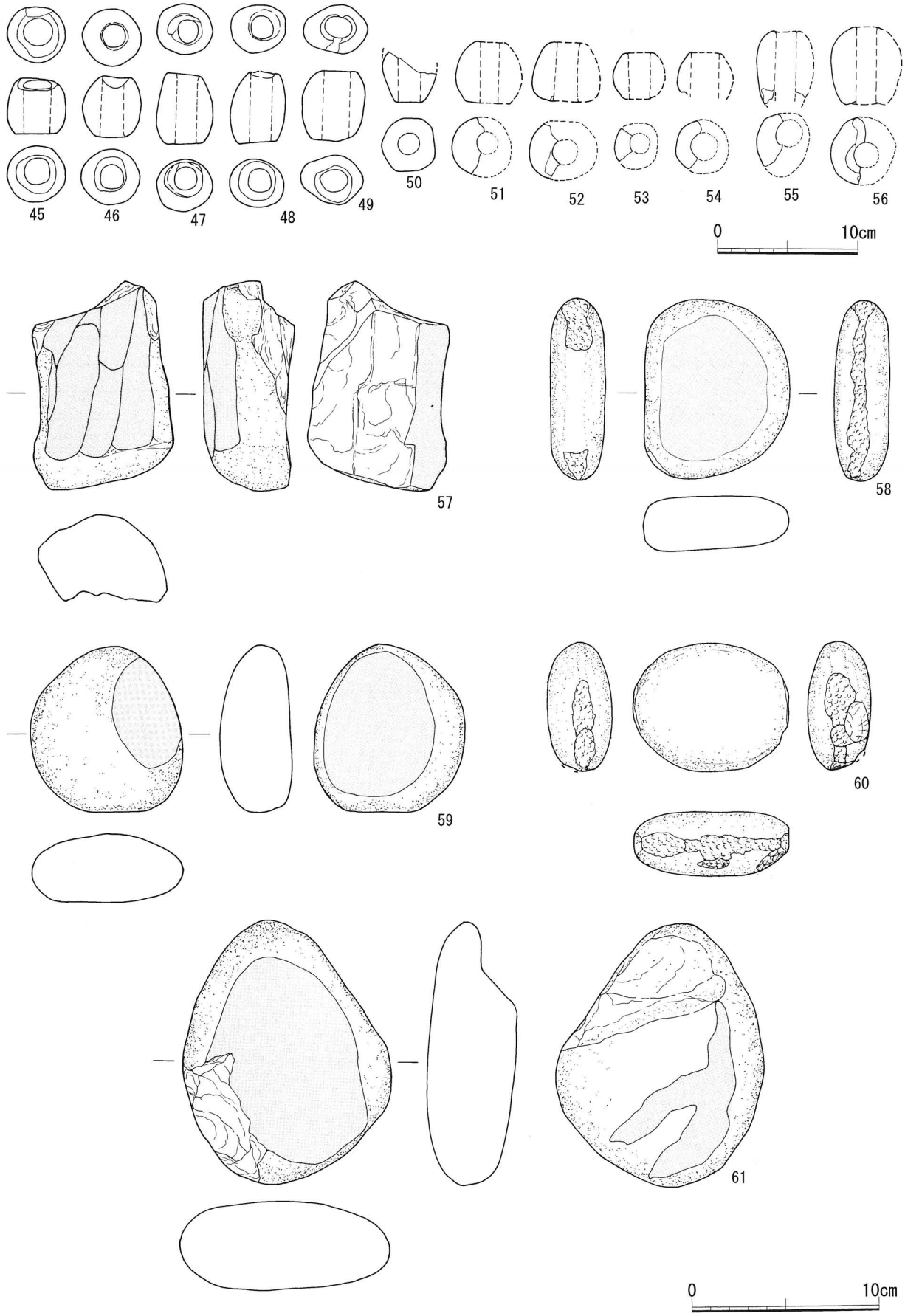
１はロクロ土師器の無台椀で、内面は黒色処理が施され、外面は煤が付着する。２はロクロ土師器の有台皿で、やや高い高台を有している。３は須恵器瓶類の蓋である。外面天状部中央が手持ちヘラケズリとなる。４は須恵器甕の肩部片で、外面が叩き、内面が当て目となる。５は灰釉陶器の椀で、やや厚めの釉を浸け掛けしている。６・７は須恵器三筋壺である。６は肩部片で、隆帯の断面は台形を呈する。７は肩～頸部片と胴下部の破片で、接合はできないが同一個体と推測される。隆帯の断面は三角形を呈している。８～14は製塩土器である。８・９が口縁部片、10～13が胴部片で、10の内面にはハケ目が認められる。14は胴部片で、上下両端が接合面より剥落している。15～20は土錘である。いずれも小片であるが、重量が40g以上の俵型を呈していたと推測される。



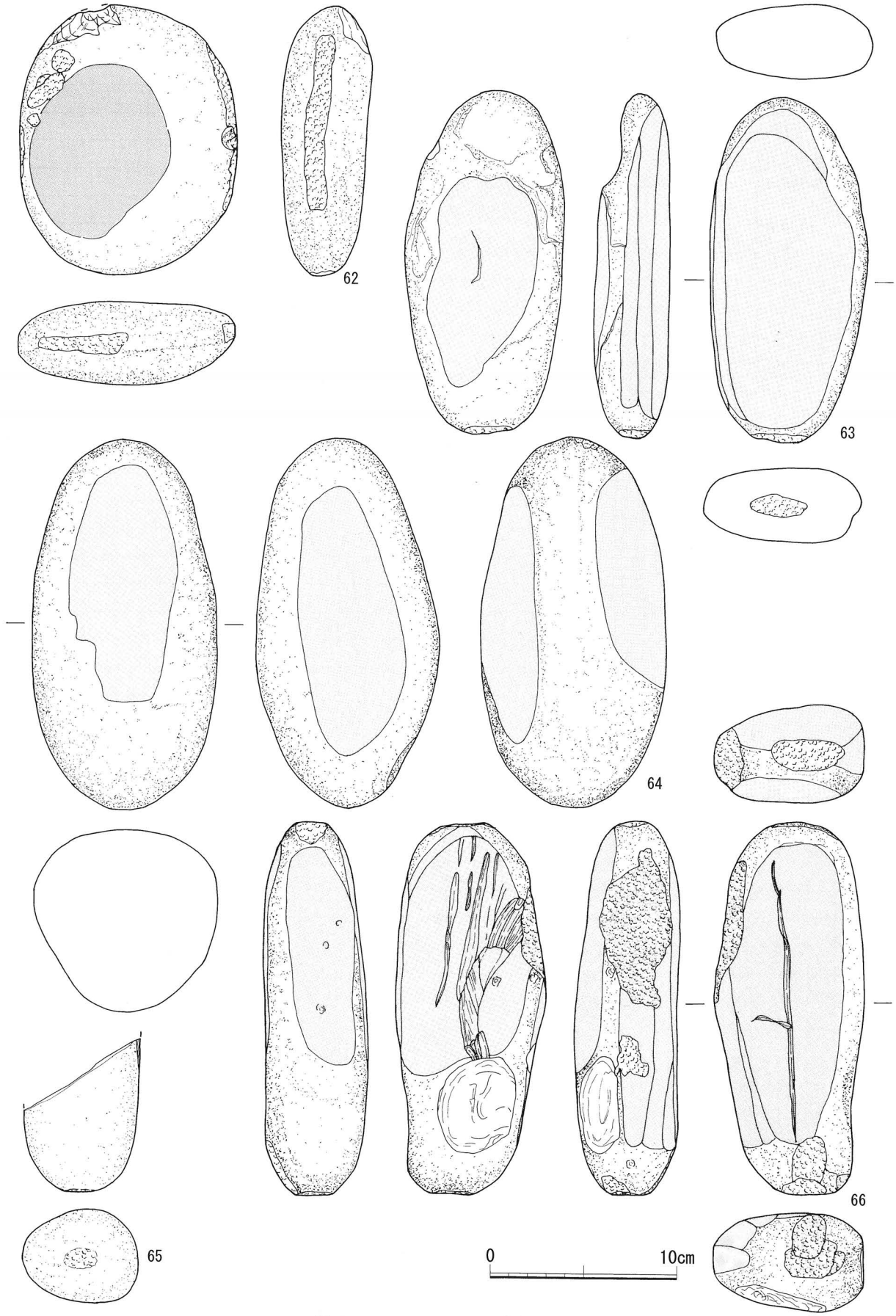
第19図　SK202出土遺物（1）



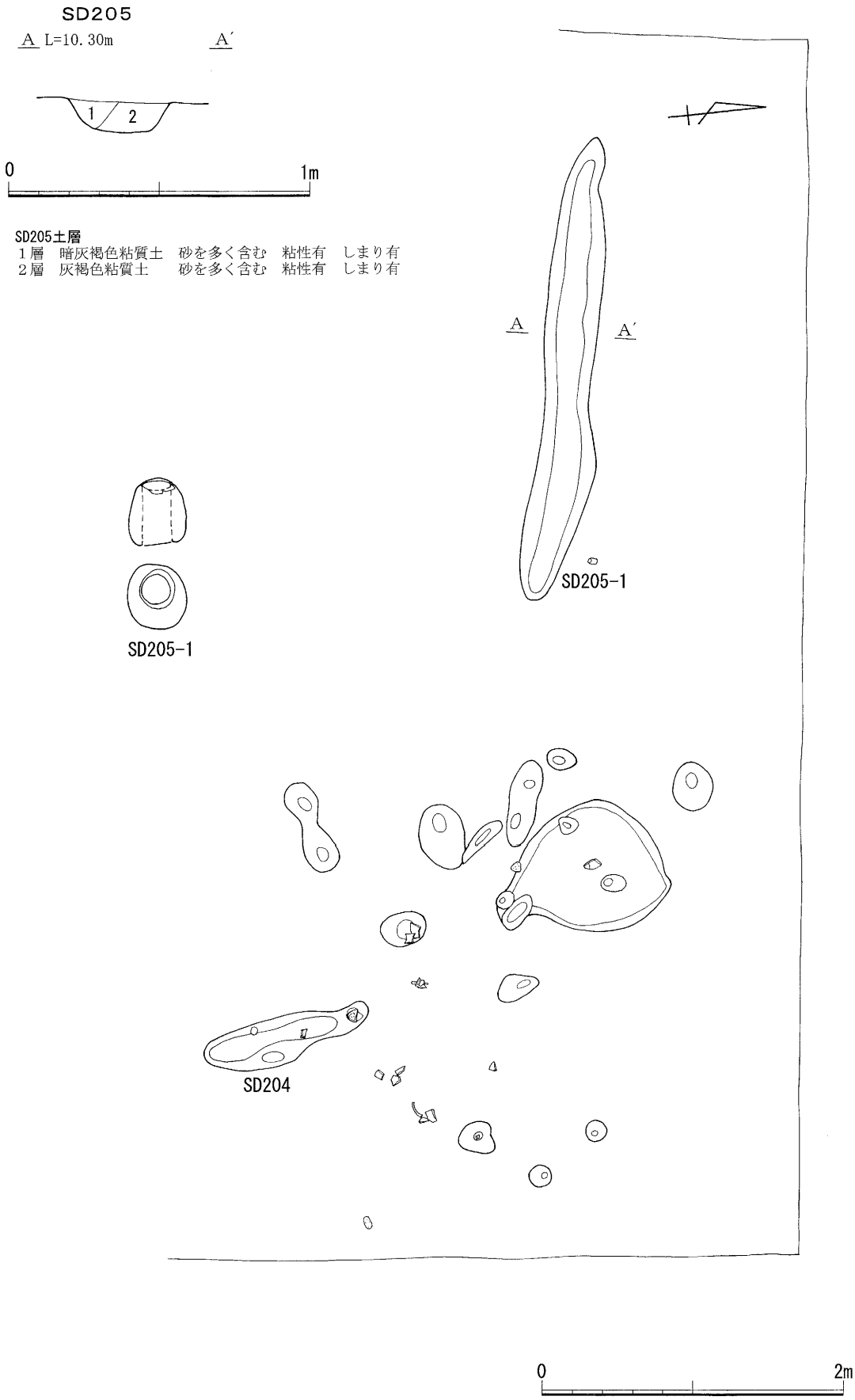
第 20 図　SK202 出土遺物（２）



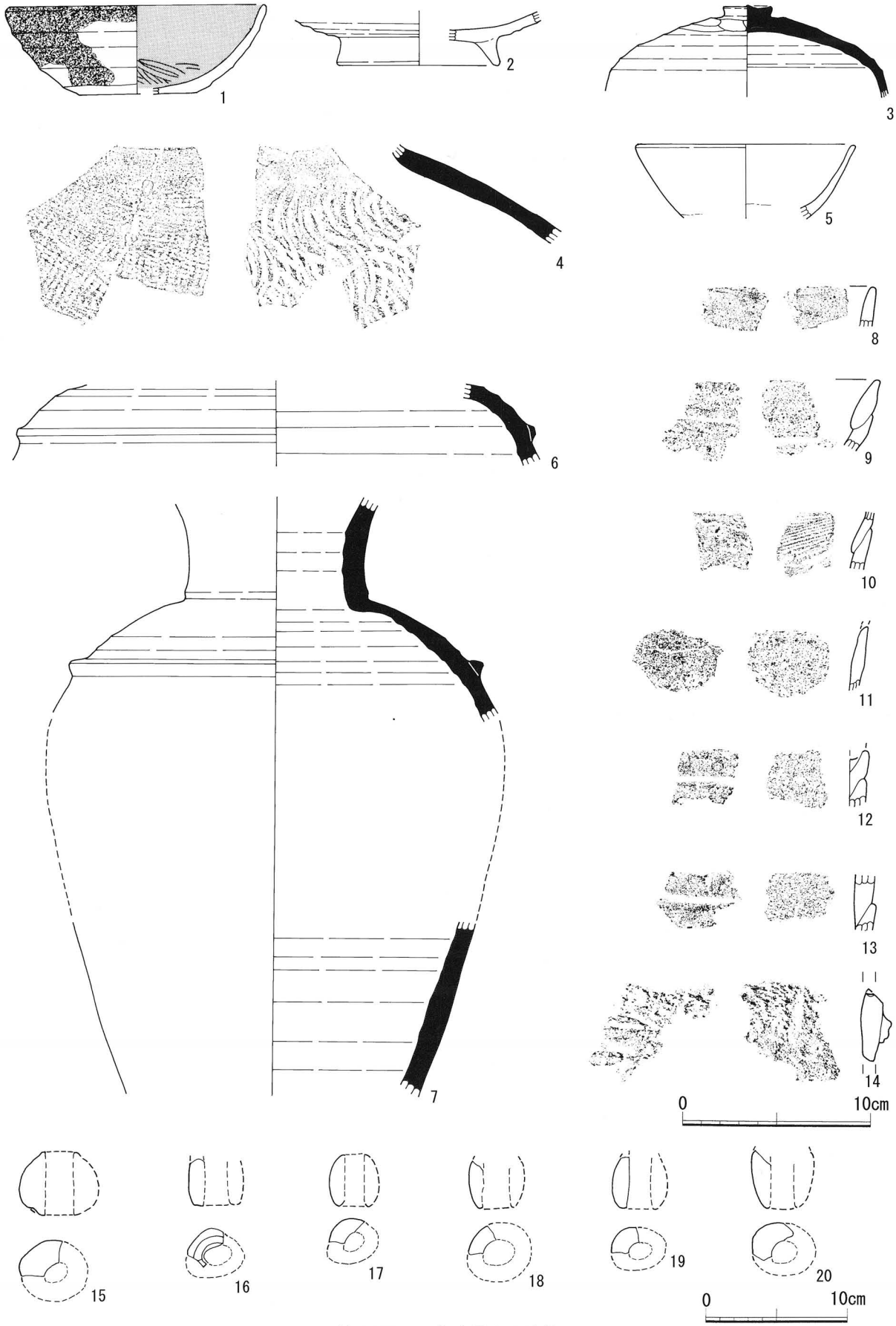
第 21 図　SK202 出土遺物（3）



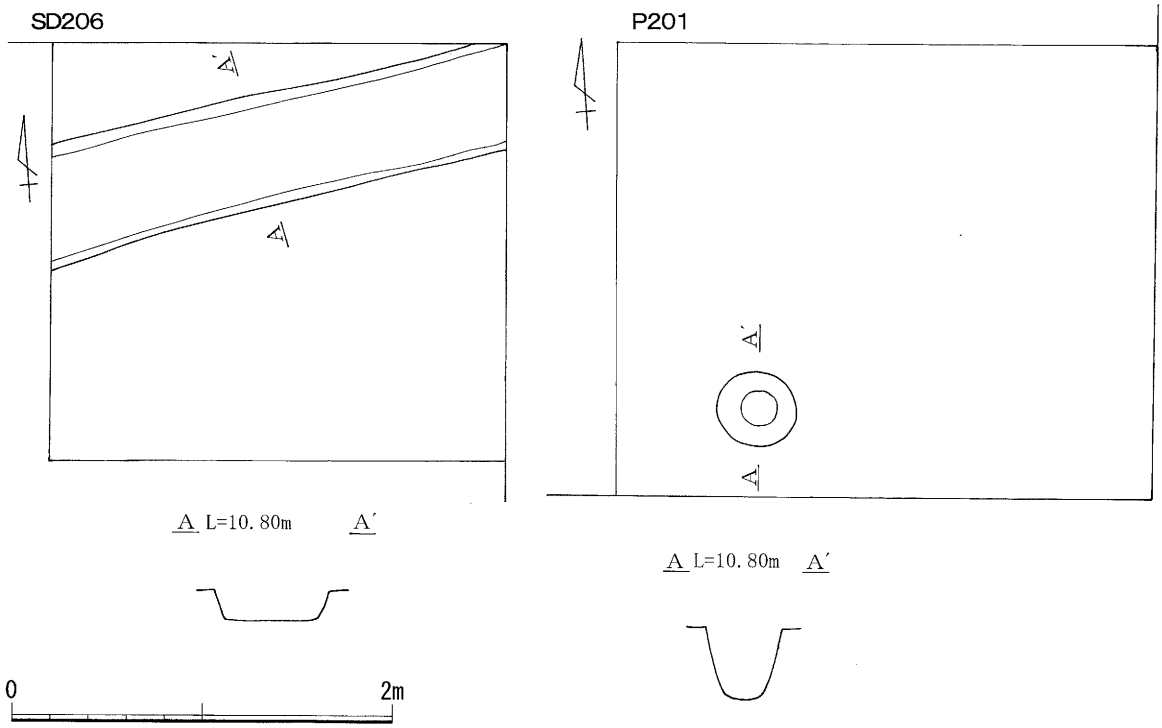
第 22 図　SK202 出土遺物（4）



第 23 図　　SD204・205、SD205 出土遺物



第 24 図　　包含層出土遺物



第 25 図　SD206・P201

4　6－7地点

6－7地点は本調査対象とはならなかったが、層位確認で調査区の一部を深掘りしたところ溝1条とピット1基が検出されている。遺物は出土していない。

SD206（第25図）

調査区の北西部に位置し、ほぼ東西方向を直線的に走向する。東西両端は調査区外に延びる。断面形状は幅30cm×深さ8cmの逆台形状を呈する。遺物は出土していないが、近隣に位置する平成17年度発掘のC－4区の調査成果に照合すると層位的に中世段階と考えられる。

P201（第25図）

調査区の南西部に位置する。径20cmの円形を呈し、断面形状は深さ20cmの逆台形状を呈する。遺物は出土していないが、近隣に位置する平成17年度発掘のC－4区の調査成果に照合すると層位的に中世段階と考えられる。　（折原）

5　遺物観察表

第3表　12－7地点遺物観察表

番号	器種 種別	法　量　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
1	土師器 有台椀	口 －　底 4.6　高 －	①砂粒②赤橙色③酸化	右回転糸切り。。	
2	土製品 土錘	径3.4 長さ4.4 孔径1.7 重さ37.36g	①砂粒②赤橙色③酸化	巻きつけ。孔部両端が面取り状となる。樽型。	
3	土製品 土錘	径－ 長さ(4.2) 孔径－ 重さ(12.18g)	①砂粒②暗灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
4	土製品 土錘	径－ 長さ(4.4) 孔径－ 重さ(38.22g)	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	

第４表　SK201 遺物観察表

番号	器種 種別	法　　量　　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
1	土師器 無台椀	口 12.5　底 5.3　高 5.0	①砂粒②明橙色③酸化	右回転糸切り。。	
2	土製品 土錘	径2.1 長さ2.8 孔径0.65 重さ10.67g	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
3	土製品 土錘	径2.6 長さ3.75 孔径0.6 重さ20.01g	①砂粒②にぶい赤橙色③酸化	巻きつけ。卵型。	
4	土製品 土錘	径(2.20) 長さ(2.65) 孔径0.6 重さ(12.49g)	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
5	土製品 土錘	径2.6 長さ3.7 孔径0.6 重さ19.09g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
6	土製品 土錘	径2.6 長さ3.75 孔径0.6 重さ20.01g	①砂粒②淡橙色③酸化	巻きつけ。卵型。	
7	土製品 土錘	径2.5 長さ3.65 孔径0.7 重さ16.94g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
8	土製品 土錘	径2.8 長さ3.9 孔径0.6 重さ24.79g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
9	土製品 土錘	径2.7 長さ3.7 孔径0.75 重さ22.32g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
10	土製品 土錘	径2.8 長さ3.85 孔径0.6 重さ23.24g	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。卵型。	
11	土製品 土錘	径3.0 長さ3.75 孔径0.6 重さ27.10g	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。卵型。	
12	土製品 土錘	径2.55 長さ4.2 孔径0.65 重さ23.06g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
13	土製品 土錘	径2.7 長さ4.1 孔径0.6 重さ24.45g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。卵型。	
14	土製品 土錘	径2.9 長さ4.1 孔径0.7 重さ26.82g	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。樽型。	
15	土製品 土錘	径3.1 長さ4.25 孔径0.6 重さ29.66g	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。卵型。	
16	土製品 土錘	径2.4 長さ3.3 孔径0.6 重さ15.12g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。孔部片端に面取り。卵型。	
17	土製品 土錘	径2.95 長さ3.6 孔径0.7 重さ28.01g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。孔部片端に面取り。卵型。	
18	土製品 土錘	径2.95 長さ3.75 孔径0.7 重さ28.00g	①砂粒②橙褐色③酸化	巻きつけ。孔部片端に面取り。卵型。	
19	土製品 土錘	径2.9 長さ4.2 孔径0.6 重さ28.00g	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。孔部両端に面取り。樽型。	
20	土製品 土錘	径2.75 長さ4.5 孔径0.7 重さ28.20g	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。孔部両端に面取り。樽型。	
21	土製品 土錘	径－ 長さ5.5 孔径－ 重さ(25.41)g	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部両端に面取り。卵型。	
22	土製品 土錘	径4.1 長さ5.6 孔径1.75 重さ76.42g	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
23	土製品 土錘	径4.35 長さ5.25 孔径1.8 重さ64.70g	①砂粒②明橙色③酸化	巻きつけ。樽型。	
24	土製品 土錘	径(4.1) 長さ4.5 孔径1.8 重さ(64.71g)	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
25	土製品 土錘	径3.85 長さ4.8 孔径1.6 重さ61.34g	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
26	土製品 土錘	径4.1 長さ4.1 孔径1.6 重さ40.61g	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
27	土製品 土錘	径4.2 長さ5.1 孔径1.8 重さ64.86g	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	

第５表　SK202 遺物観察表（1）

番号	器種 種別	法　　量　　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
1	土師器 無台椀	口 (11.2)　底 5.0　高 3.8	①砂粒②淡赤橙色③酸化	右回転糸切り。	内外面に赤彩
2	土師器 無台椀	口 (12.2)　底 (5.0)　高 4.2	①骨針・砂粒②淡赤橙色③酸化	右回転糸切り。	内外面に煤
3	土師器 無台椀	口 (12.0)　底 5.0　高 4.0	①砂粒②にぶい赤橙色③酸化	回転糸切り。	

第６表　　SK202 遺物観察表（2）

番号	器種 種別	法　　量　　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
4	土師器 無台椀	口（13.2）　底 5.4　高 5.0	①砂粒②にぶい赤橙色③酸化	右回転糸切り。	
5	土師器 無台椀	口（12.0）　底 5.4　高 4.5	①砂粒②灰白色③酸化	右回転糸切り。	底面に煤
6	土師器 無台椀	口（11.0）　底 5.4　高 3.5	①砂粒②灰白色③酸化	右回転糸切り。	
7	土師器 無台椀	口（12.2）　底（5.0）高 4.1	①骨針・砂粒②赤橙色③酸化	右回転糸切り。	
8	土師器 無台椀	口（12.0）　底 4.8　高 4.2	①骨針・砂粒②淡赤橙色③酸化	右回転糸切り。	
9	土師器 無台椀	口（12.2）　底 5.4　高 4.0	①骨針・砂粒②淡赤橙色③酸化	右回転糸切り。	体部外面に黒色付着物
10	土師器 椀	口（15.0）　底 －　高 －	①砂粒②赤橙色③酸化	ロクロ調整。	
11	土師器 無台椀	口 －　底 5.0　高 (3.7)	①砂粒②赤橙色③酸化	右回転糸切り。	内外面に赤彩
12	土師器 有台椀	口 －　底 5.0　高 (3.8)	①砂粒②浅黄橙色③酸化	右回転糸切り。内面ミガキ	内面黒色処理
13	土師器 有台椀	口（16.0）　底 4.8　高 7.6	①砂粒②浅黄橙色③酸化	右回転ロクロ、回転糸切り。	
14	土師器 小甕	口(18.0)　底 －　高－	①砂粒②橙褐色③酸化	ロクロ調整。	外面に煤
15	土師器 小甕	口 －　底 7.0　高－	①骨針・砂粒②にぶい黄橙色③酸化	ロクロ調整。回転糸切り。内面胴部下端ヘラナデ。	
16	土師器 鍋	口（40.0）　底 －　高－	①砂粒②にぶい赤橙色③酸化	ロクロ調整。	
17	土師器 鍋	口（42.0）　底 －　高－	①礫・砂粒②淡赤橙色③酸化	ロクロ調整。外面体部下半ケズリ。	
18	土師器 鍋	口（42.0）　底 －　高－	①礫・骨針②明橙色③酸化	ロクロ調整。外面体部下半ケズリ。	
19	須恵器 甕	口（11.0）　底 －　高－	①砂粒②黒灰色③還元	ロクロ調整。	
20	須恵器 三筋壺	口 －　底 －　高－	①砂粒②黒灰色③還元	ロクロ調整。	
21	須恵器 甕	口 －　底 －　高－	①黒色粒・白色粒②灰色③還元	ロクロ調整。	
22	製塩土器 鉢	口 －　底 －　高－	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
23	製塩土器 鉢	口 －　底 －　高－	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
24	製塩土器 鉢	口 －　底 －　高－	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
25	製塩土器 鉢	口 －　底 －　高－	①砂粒②淡黄橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
26	土製品 土錘	長さ 5.8　径 1.4　孔径 0.45 重量 7.89	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。寸胴型。	
27	土製品 土錘	長さ 5.8　径 1.4　孔径 0.70 重量 15.92	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
28	土製品 土錘	長さ 4.3　径 2.8　孔径 0.60 重量 29.92	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
29	土製品 土錘	長さ 5.0　径 5.0　孔径 2.0 重量 84.59	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
30	土製品 土錘	長さ 5.3　径 4.9　孔径 1.6 重量 83.39	①砂粒・軽石②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。樽型。	
31	土製品 土錘	長さ 5.4　径 4.2　孔径 1.7 重量 64.24	①砂粒・軽石②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。樽型。	
32	土製品 土錘	長さ －　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒・軽石②灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
33	土製品 土錘	長さ 5.0　径 4.6　孔径 1.6 重量	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
34	土製品 土錘	長さ 4.9　径 4.3　孔径 1.6 重量 68.67	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	

第７表　SK202 遺物観察表（3）

番号	器種 種別	法　量　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
35	土製品 土錘	長さ 4.9　径 4.2　孔径 1.5 重量 69.56	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
36	土製品 土錘	長さ 5.4　径 3.6　孔径 1.6 重量 －	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
37	土製品 土錘	長さ 5.0　径 5.0　孔径 1.9 重量 90.65	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
38	土製品 土錘	長さ 5.2　径 3.9　孔径 1.7 重量 58.20	①砂粒・軽石②黒褐色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
39	土製品 土錘	長さ 5.4　径 4.4　孔径 1.7 重量 80.04	①砂粒・軽石②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
40	土製品 土錘	長さ 5.8　径 3.8　孔径 1.6 重量 65.56	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
41	土製品 土錘	長さ 5.8　径 4.5　孔径 1.6 重量 77.02	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
42	土製品 土錘	長さ 5.0　径 4.6　孔径 1.6 重量 107.63	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
43	土製品 土錘	長さ 6.2　径 4.5　孔径 1.7 重量 80.96	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
44	土製品 土錘	長さ 6.4　径 5.0　孔径 1.7 重量 －	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。樽型。	
45	土製品 土錘	長さ 4.1　径 4.1　孔径 2.0 重量 46.37g	①砂粒②明黄橙色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
46	土製品 土錘	長さ 4.4　径 4.2　孔径 1.7 重量 50.63g	①砂粒②灰褐色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
47	土製品 土錘	長さ 5.1　径 4.0　孔径 1.6 重量 58.06g	①砂粒②浅黄橙色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
48	土製品 土錘	長さ 5.2　径 3.9　孔径 1.7 重量 58.20g	①砂粒・軽石②黒褐色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
49	土製品 土錘	長さ 5.0　径 4.5　孔径 2.0 重量 54.86g	①砂粒・軽石②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。孔部両端面取り。樽型。	
50	土製品 土錘	長さ －　径 －　孔径 1.6 重量 －	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
51	土製品 土錘	長さ 4.4　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒・軽石②灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
52	土製品 土錘	長さ 4.2　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒②暗灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
53	土製品 土錘	長さ 3.1　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒②暗灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
54	土製品 土錘	長さ －　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒②暗灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
55	土製品 土錘	長さ －　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。樽型。	
56	土製品 土錘	長さ 5.5　径 －　孔径 － 重量 －	①砂粒②淡赤橙色③酸化	巻きつけ。樽型。	

第８表　SK202 遺物観察表（4）

番号	器種 種別	法　量　cm	特徴	
57	石器 砥石	長さ（11.2）幅 7.5　厚さ 4.7 重量409.46g	自然礫の破砕材の一面を砥石として利用している。砥面は多角形となる。流紋岩。	
58	石器 磨石	長さ 9.6　幅 7.7　厚さ 2.9重量348.48g	自然礫の平の一面に磨滅痕、側面に敲打痕がみられる。	
59	石器 磨石	長さ 8.7　幅 8.0　厚さ 3.7重量368.48g	自然礫の平の二面に磨滅痕がみられる。	
60	石器 敲石	長さ 8.3　幅 6.9　厚さ 3.4重量277.47g	自然礫の平の側面に敲打痕がみられる。	
61	石器 磨石	長さ 14.0　幅 11.1　厚さ 4.7重量827.77g	自然礫の平の面に摩滅痕がみられる。	
62	石器 磨石	長さ 14.5　幅 11.6　厚さ 4.4重量1041.17g	自然礫の平の2面に摩滅痕、側面に敲打痕がみられる。	
63	石器 磨石	長さ 18.5　幅 8.4　厚さ 4.0重量895.39g	自然礫の平の1面に摩滅痕、側面端部に敲打痕がみられる。	
64	石器 磨石	長さ 19.9　幅 9.8　厚さ 9.8重量2449.36g	自然礫の平の3面に摩滅痕がみられる。	
65	石器 敲石	長さ 19.9　幅 9.8　厚さ 9.8重量2449.37g	自然礫の端部に敲打痕がみられる。	
66	石器 砥石	長さ 19.9　幅 9.8　厚さ 9.8重量2449.38g	自然礫の3面に摩滅痕、側面と端部に敲打痕がみられる。	

第 9 表　SD205 遺物観察表

番号	器種 種別	法　量　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
1	土製品 土錘	径4.4　長さ4.4　孔径2.0 重さ44.15g	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。孔部片端面取り。	

第 10 表　包含層出土遺物

番号	器種 種別	法　量　cm	①胎土②色調③焼成	成・整形の特徴	
1	土師器 無台椀	口 (13.6)　底 (6.0)　高 4.7	①砂礫②橙褐色③酸化	ロクロ調整。内面見込みにナデ、体部～口縁部ミガキ。体部下端回転ヘラケズリ。底部ナデ。	内面に黒色処理。
2	土師器 有台椀	口 ―　底 (8.5)　高 ―	①砂粒②灰白色③酸化	ロクロ調整。	
3	須恵器 蓋	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒②灰白色③還元	右ロクロ調整。外面天井部手持ちヘラケズリ。	短頸壺の蓋
4	須恵器 甕	口 ―　底 ―　高 ―	①砂礫②灰白色③還元	外面叩き目、内面当て目。	
5	灰釉陶器 碗	口 11.5　底 ―　高 ―	①砂礫②灰白色③還元	ロクロ調整。浸け掛け。	
6	須恵器 三筋壺	口 ―　底 ―　高 ―	①砂礫②黒灰色③還元	ロクロ調整。	
7	須恵器 三筋壺	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒②青灰色③還元	ロクロ調整。	
8	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
9	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒・骨針②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
10	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒・骨針②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
11	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒・礫②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
12	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
13	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
14	製塩土器 鉢	口 ―　底 ―　高 ―	①砂粒②赤橙色③酸化	粘土紐接合痕。	
15	土製品 土錘	長さ 4.5　径 ―　孔径 ― 重量 ―	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
16	土製品 土錘	長さ ―　径 ―　孔径 ― 重量 ―	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。面取り。樽型。	
17	土製品 土錘	長さ 3.7　径 ―　孔径 ― 重量 ―	①砂粒②暗灰褐色③酸化	巻きつけ。樽型。	
18	土製品 土錘	長さ ―　径 ―　孔径 ― 重量 ―	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
19	土製品 土錘	長さ ―　径 ―　孔径 ― 重量 ―	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	
20	土製品 土錘	長さ ―　径 ―　孔径 ― 重量 ―	①砂粒②灰白色③酸化	巻きつけ。樽型。	

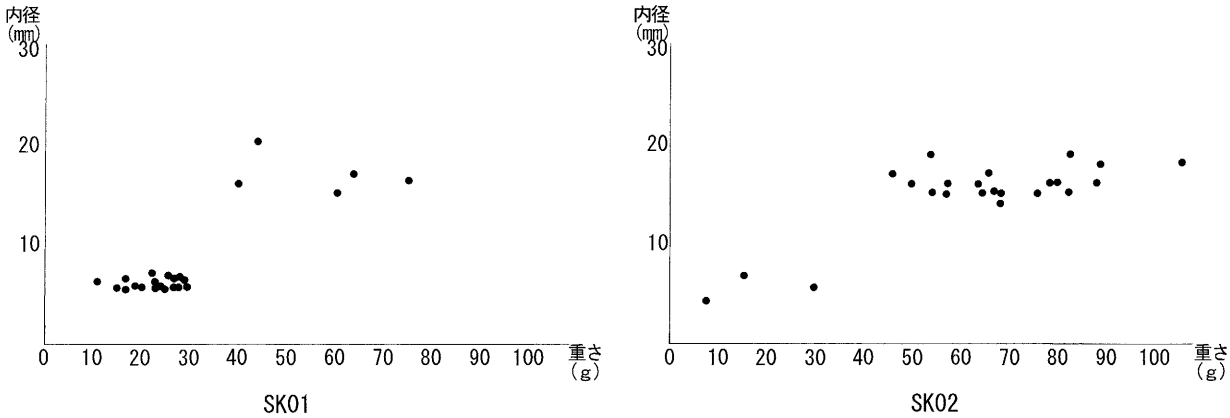
V　総括

今回の調査では、13－2・12－7・12－8・6－7・3－1・3－2・3－3・3－13・2－2の計９地点の発掘調査が実施されており、平成17年度の発掘調査での地区名に対応させると13－2・12－7・12－8の３地点がＡ地区、６－７地点がＣ地区、2-2・3－1・3－2・3－3・3－13の５地点がＢ地区となる。発掘調査で遺構・遺物が検出されたのは12－7・12－8・6－7の３地点だけで、前回の発掘調査でも遺構・遺物が希薄であったＢ地区に位置する3－1・3－2・3－3・3－13の各地点では遺構・遺物ともに検出されていない。

12－7・12－8地点

ここでは、12－7・12－8地点の性格と土錘について触れる。

12－7・12－8の両地点は、ともに平安時代の遺物が出土しており、遺構は12－7地点において検出されていないが12－8地点からは土坑と畑跡が検出されている。出土遺物の詳細な時期は池野正男氏の研究成果（池野正男　1997）を参考に検討すると次のようになる。本遺跡の土器群の特徴として、須恵坏類が少なく、土師器椀類が多い点があげられ、食器類において須恵器坏類主体から土師器椀類主体への交換期は９世紀第四半世紀とされることより、上限がそれ以後となり、９世紀末～10世紀初頭までの土師器無台椀は口径11～13cm、それより後は12～13cmで、やや大型化するとされ、本遺跡の土師器無台椀の口径が11～12cmが主体になることより10世紀初頭以前が考えられ、以上より本遺跡の土器群は９世紀第四半世紀と推測される。土坑と畑跡の新旧関係は畑跡が古く、土坑が新しくなる。近接する平成17年度発掘調査区のＡ－１とＡ－２区では平安時代の畑址を主体として土坑・溝が検出されており、畑が古く土坑・溝が新しいこと、遺物も須恵器双耳瓶や土錘が目立つ点など12－8地点と共通するが、遺物出土量の点でＡ－１・Ａ－２の両区は微量なのに対して、12－8地点は多量に出土している点が異なり、遺物の多くが土坑・溝に伴うことから、その時期における中心的な遺構が12－8地点周辺に存在していたためと思われる。本遺跡Ａ地区の性格についてはSK201・202より出土した遺物群から考えることができる。この遺物群は土錘・製塩土器が多量に存在し、敲石や磨石が多くみられることが特徴といえる。敲石と磨石はカマドなどの構築材として縄文時代の遺物が他所より搬入された可能性もあるが、遺構構築材にむかない比較的小さな例が見られること、一部に鉄製工具に刃痕が存在すること、偶然にしては出土量が多いことより平安時代の所産と考える。同時期の周辺遺跡で敲石と



第26図　土錘の重量×孔径グラフ

磨石がほとんど出土していないことより一般的な道具というよりも特殊性の強い道具といえ、何らかの生産用具とも考えられる。これらより鵜坂Ⅰ遺跡Ａ地区は一般的な集落遺跡に比較して土錘・製塩土器・敲石・磨石の出土量が多いことから生活の場というよりも生産の場的性格を有していたものと思われる。

土錘は、SK201とSK202より多量に出土している。SK201では重量が30g以下、孔径が0.6cm前後の例が多く、一網分の土錘が埋もれたかのような状況で集中して出土している。SK202では重量が40～90g、孔径が1.7cm前後の例が多く、大きく２ヶ所に分かれて出土しており、二網分の土錘が存在しているとも考えられる。仮に土錘出土状況の各集中が一網分だとすると、最少数で10個前後、最大数で詳細な出土位置が不明な包含層出土の土錘を考慮しても30個前後、20個強程度が予想される。これだけでは当時の網の土錘利用数がどの程度であったかは言えないが、本例のような出土状況の類例が増加することを期待したい。

６－７地点

６－７地点は、宅地造成による削平が遺物包含層相当層まで及ばず、本調査の対象外となったが一部層位確認のため深掘りを実施し、そこよりピット・溝が検出されている。遺物の出土は無いが平成17年度調査のＣ－４地区の層序を参考にすると中世に構築されたものと考えられる。　　（折原）

参考文献

池野正男　1997　「越中における10・11世紀代の土器様相」
『シンポジウム北陸の10・11世紀代の土器様相』　北陸古代土器研究会

富山市教育委員会　2005　『富山市鵜坂Ⅰ遺跡発掘調査報告書』

戸潤幹夫　1983　「能登式製塩土器－型式分類とその変遷－」
『北陸の考古学　石川考古学研究会会誌　第26号』石川考古学研究会

細辻真澄　2001　「任海宮田遺跡出土の土錘について」
『紀要　第４号　富山考古学研究』　財団法人　富山文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所

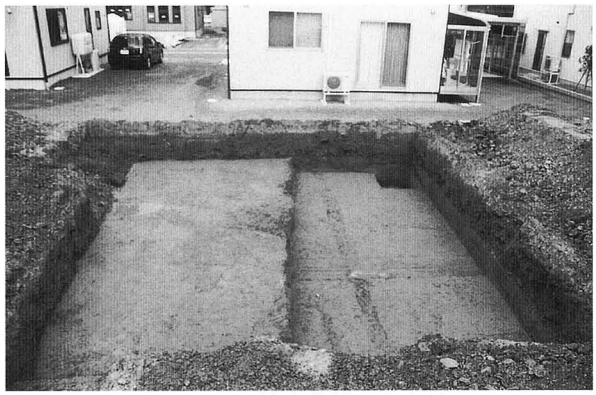
細辻真澄　2003　「任海宮田遺跡出土の土錘について」
『紀要　第６号　富山考古学研究』　財団法人　富山文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所

藤田富士夫　2002　「2. 古代婦負群の「郷」擬定と栃谷南遺跡の位置」
『富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書　Ⅲ』富山市教育委員会

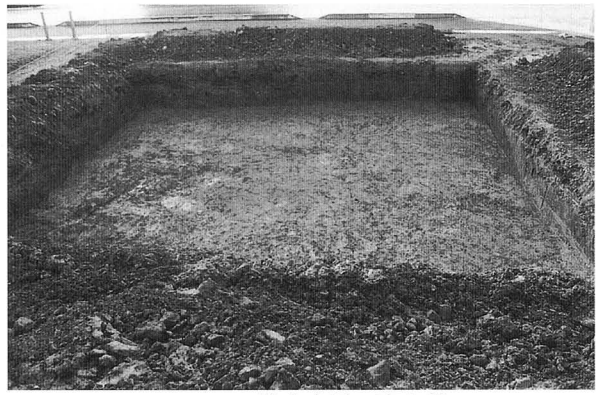
図版1

1　13-2 地点全景　北東より

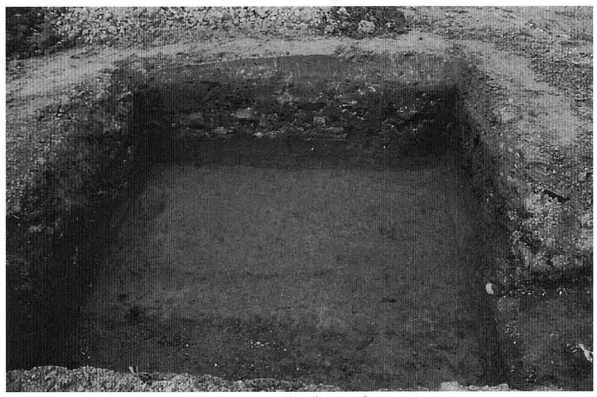
2　12-7 地点全景　南より



3　6-7 地点全景　南より



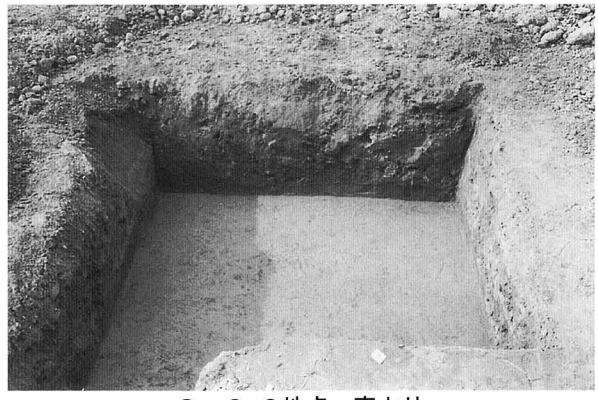
4　3-1 地点全景　東より



5　3-2 地点　南より

6　3-3 地点　南より

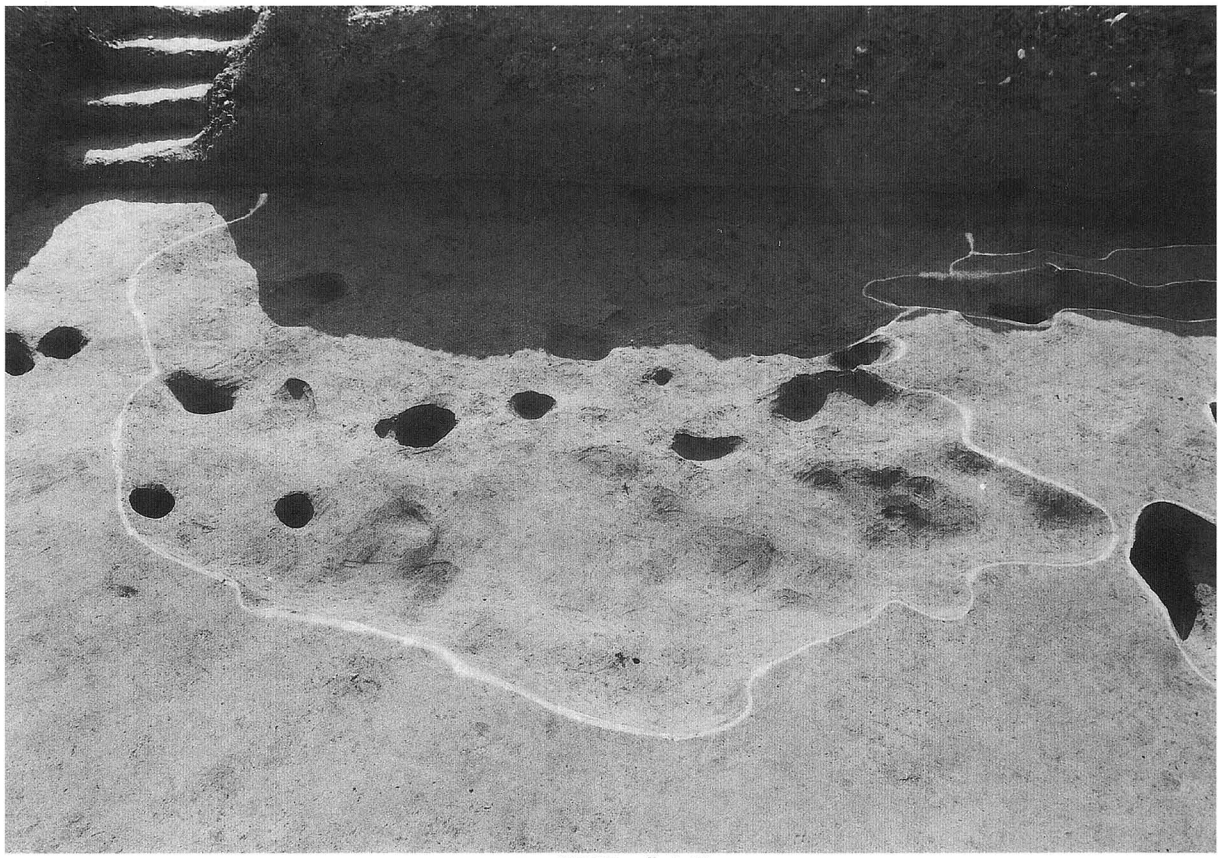
7　3-13 地点　東より



8　2-2 地点　東より

図版2

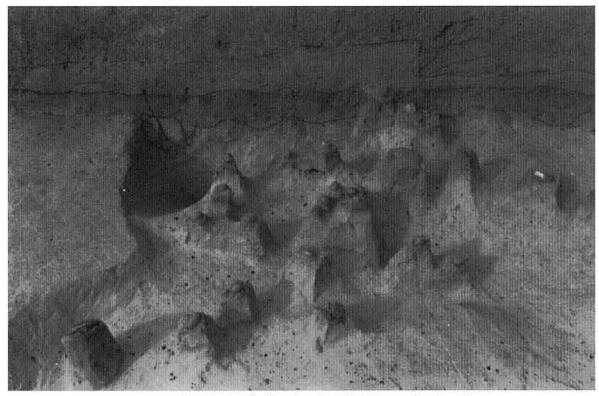
1　12-8地点全景　　東より



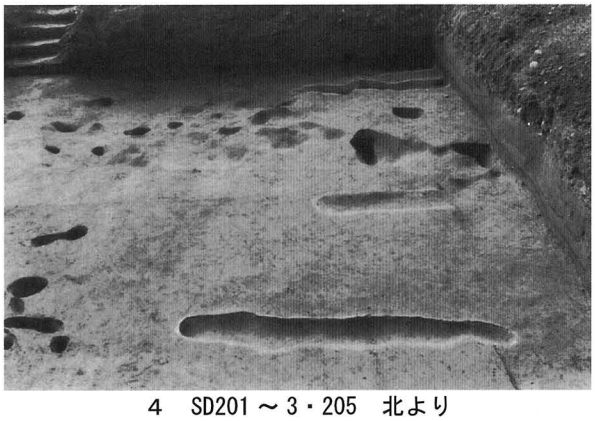
2　SK202　北より

1　SK202 遺物出土状況　東より

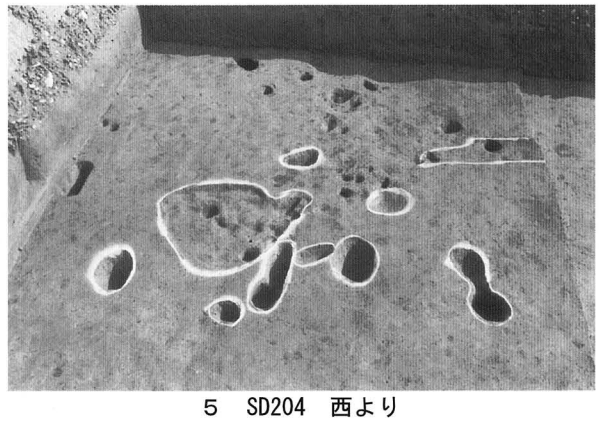
2　SK201　東より



3　SK201 遺物出土状況　東より



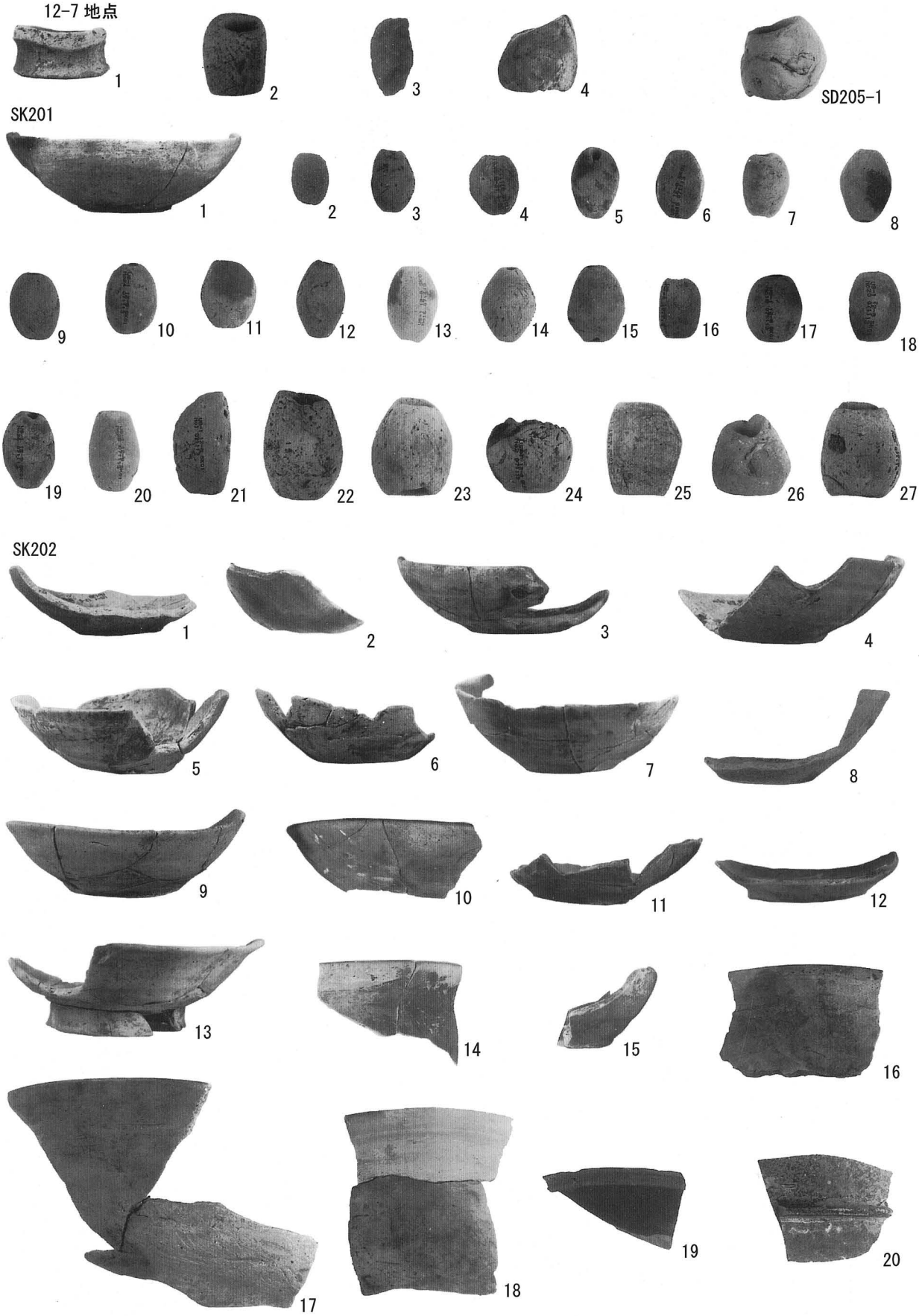
4　SD201 ～ 3・205　北より



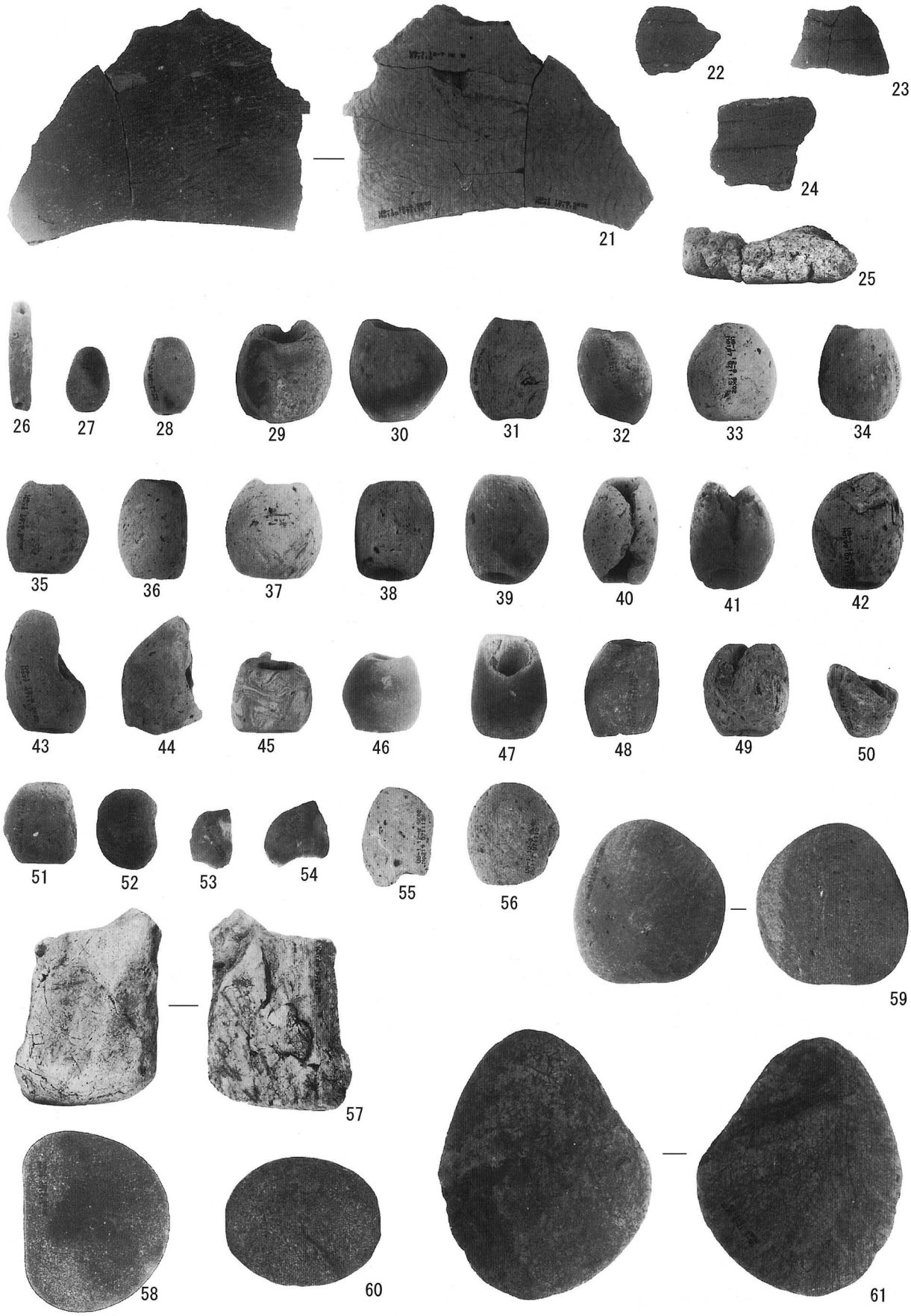
5　SD204　西より

図版4

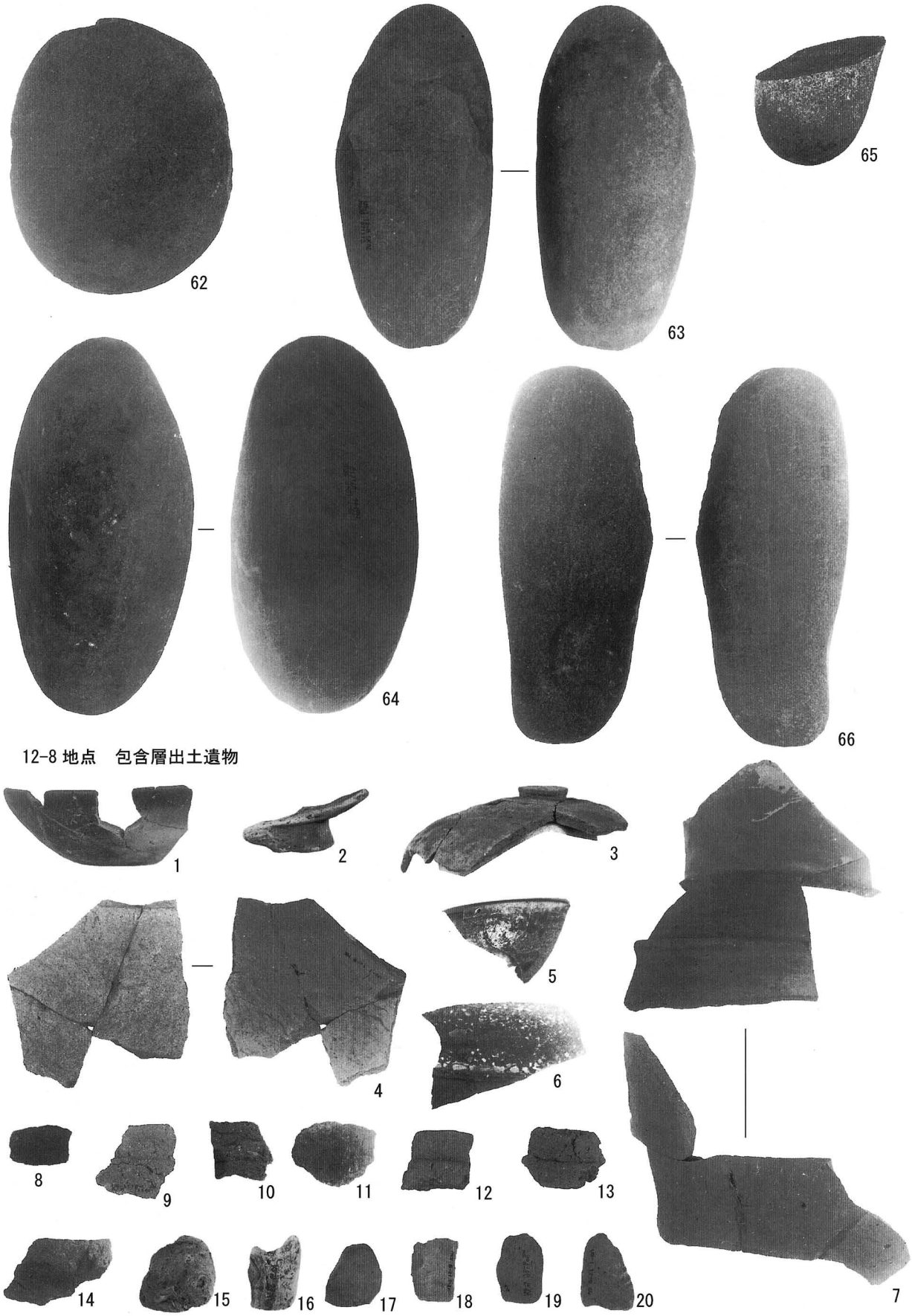
12-7 地点



出土遺物（1）


21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61

出土遺物（2）


62
63
65
64
66
12-8 地点　包含層出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

出土遺物（3）

報　告　書　抄　録

ふりがな	とやまし　うさかいちいせき　はっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	富山市　鵜坂Ⅰ遺跡　発掘調査報告書
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	29
編 著 者 名	折原洋一・藤田登・古川知明
編 集 機 関	山武考古学研究所
所 在 地	〒286-0045　千葉県成田市並木町221番　　TEL0476－24-0536
発 行 機 関	富山市教育委員会　埋蔵文化財センター
所 在 地	〒930-0091　富山県富山市愛宕町一丁目2-24　TEL076－442-4246
発行年月日	西暦2008年8月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
うさかいちいせき 鵜坂Ⅰ遺跡	とやまけんと 富山県富 やましふちゅう 山市婦中 まちうさか 町鵜坂51 ばんち　ほか 番地43　外	16362	132	36° 40′ 28″	137° 11′ 17″	20071105 ～ 20071116	321㎡	分譲宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鵜坂Ⅰ遺跡	集落跡 生産遺跡	平安	土坑 畑跡	土師器・須恵器・灰釉陶器・製塩土器・土錘　石製品	土錘が集中して出土した。
		中世	溝 ピット		構築時期は層位より推定。

要　約	鵜坂Ⅰ遺跡は、平成17年度に発掘調査が行われており、A～Cの3地区に遺構・遺物の集中が存在することが明らかになっていた。今回調査した計9地点の内、13－2・12－7・12－8の各地点はA地区に6－7地点がC地区に、3－1・3－2・3－3・3－13の各地点がB地区に位置する。 遺構・遺物が検出された地点は12－7・12－8・6－7地点の3ヶ所に止まり、他の地点は検出されていない。 12－7地点は古代の土師器・須恵器・土錘が少量出土している。 12－8地点は古代の土坑・溝が検出され、遺物は土師器・須恵器・製塩土器・土錘・石器が存在し、中でも土錘が集中して多量に出土した。 6－7地点は遺構・遺物の有無を調査するため一部を掘り下げたに止まるが、中世の溝とピットを検出している。 12-7・8地点を含む鵜坂Ⅰ遺跡のA地区は一般集落に比較して土錘・製塩土器・敲石・磨石の出量が多く、生産の場的性格を有していたと思われる。

富山市埋蔵文化財調査報告 29

鵜坂Ⅰ遺跡 発掘調査報告書

発行日　２００８年８月３０日
編　集　山武考古学研究所
〒 286-0045
千葉県成田市並木町２２１番地
Tel.　０４７１-２４-０５３６
発　行　富山市教育委員会（埋蔵文化財センター）
〒 930-0901
富山市愛宕一丁目 2-24
Tel.　０７６-４４２-４２４６
Fax.　０７６-４４２-５８１０
E-mail:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp
印　刷　㈲京文社印刷
Tel.　０４３-２４２-００６４